

手工教授法  
全

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
社會科學門		
教育部		
教授法	款	歷史項
目		次
全	冊ノ内第	冊
分類 番號	第	號
3722		

校學範  
書門部  
番  
號

冊ノ内

T1A3  
71  
A 88

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5

MADE IN JAPAN



富山縣尋常師範學校教諭淺尾重敏著

# 手工教授法

版權所有 中田書店藏版

375.7

A 88

764/

手工教授法



淺尾重

緒言

凡そ物は理想のみを以て之を成さんとす

必ず實用に適せざるもの多からん而して唯経験の

みを以て之を行ふも亦徒らに因循苟且に陥り之を

改良上進するの途なかるべし

今や實業教育の議論世に起り或は之を可と一或は

之を否とするものあり然れども概ね卓上の空論に

止まり未だ之を實地に経験して其利害得失の存す

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 9 9 6 1 a

福岡教育大学蔵書

福岡尋常師範學校



る所を論究せしものあるを聞かざるは實に遺憾とする所なり蓋し實業教育に二途あり間接法及直接法是なり間接とは何ぞや曰く之を普通教育の一分に加ひ専ら手指の運用を自在ならしめ庶物の實行力を養成して他日如何なる實業に就くも其應用を得せしむるものにして即ち小學校に於て課する所の實業科是なり直接とは何んぞや曰く専ら職業家となるものを養成するために課するものにして其かす所は或る業に熟練し精巧に之を出来せしむることを主眼とし即ち職工學校或は徒弟學校の如き是より尚二者の異なる要點を擧ぐれば甲は完全な

る人物を養成せんため普通學科中一つの必須學科として之を加ひ乙は一つの職業を習ふを専らとし他の學科は此職業に要するもののみを課し以て之を補ふものにして二者の主属各相反對せり

然るに世人工工科(實業科)と云はゞ木工或は金工の如きものを習ふて其業に熟達し學校を了るの後は直ちに該職工家となるの階梯なりと思ふものあり此の誤想よりして小學校に實業科を課し實業教育を振起せざるべからずと謂はゞ輒ち小學校をば皆職業豫習學校の如きものと變ぜざるべからざる如く稱道し或は之を理財的に課せんと欲し却て是が

ため世人の疑訝を招くこと比々皆然らざるはあき  
將た又謂らく文部省令によれば土地の状況により  
云々とあるか故に其土地殖産の状況に因りて相應  
の職業を撰ひ之を課すべきものなりと是恐くは大  
に誤解せるものからんか今や小學校に手工科實業  
科を課せんとするや勿論一ツの新學科を増設する  
ものにして且つ之により幾分の費用を要すること  
かれは設令必要の學科なりとするも今俄かに之を  
課するに於ては經費上或いは之を許さゝる所もあ  
るべし又學校によりては之か教師訓導以上の人に  
乏き所もあるべし又は簡易科のみを置くか如き

所には讀書算數すら辛ふて之を教授することを得べき所もあるべし是等の諸點を考へ即ち人民生計の度合及學校教育の程度を計り其状況の如何を觀察して之を課せよと規定したるものにして其土地産業の種類ふよりて實業の種類を撰べよとの意ふは非るべし然れども世間徃々土地固有の産業あるありて一村舉て之ふ後事す此等の地方に於けるの子弟は後來必ず其業に従はさるべからざるものなれば此の如き土地に於ては其職業を取りて之を課するも敢て妨げなかるべしと雖ども是れ已小普通小學校と云ふべからざりて寧ろ職業豫習學校と

稱すべし

此故に只單ふ實業教育を振起すべしとの問題に對して前述の直接法、間接法何れに頼り何れを取るも何の障害かあらん然れども余か今論せんと欲する所のものは小學校普通教育を授くる所に實業科を置くへしとの主意なり換言すれば普通學科の一部の必須科として小學校に實業科を課すべしとの意なりと知るべし必竟此實業科といふ意義は職業を指すものに非ずして從來教授する所の讀書數學の如き概ね無形的精神的の教育のみふ頗き只く腦力を練磨するふ止まりて實物の觀察手指の運用に更に

之をかきふより小學校を卒業するものハ必ず官吏か教員にあらざれハ其人を用うるの途なきものとまで世人は感想を抱かめたり故に此弊を矯正せんため實物の觀察實地の應用を得せしめんかため此實業科といふものを置かんとするものなり而るに實業科と云はゞ獨り手工科(手指の運用實行力、工夫力の養成等)に限らず農業科の如きも亦此一にして土壤の種類、改良法、肥料の成分、製法効用等を研究するは之を化學の實用として栽培、耕種を攻究するは之を植物學の應用として牧畜養禽は之を動物學等の應用として氣象の觀察は之を物理學の應用となり依て以

て教授するに於ては生徒自ら之を實地ニ試験し得るのみならず徒に卓上花鳥の解剖等をなすに優ること万々なるべし尤も理科一般の通理を之を教授すべきこと勿論のことなりとす商業科の如き之を小學校に課するも應用の道なきのみならず必須と謂ふべき程にも之なきにより文部省に於ても之を省ける所以なるか然れとも尚商業科を經濟學の應用と見倣し財本價格の成立より貸銀利潤の配合及需用供給の理殖産の狀況利用厚生の道を知らしめ兼て簿記計算の事を練習せしむれば蓋し其効益少なからざるべし故に實業教育といふ語を有形的

教育と換言するも不可なからん

今他の學科も就て其例を舉ぐれば作文に於ては之を通常往復の書翰に擬し時々生徒の實地を見聞せし事項に就て之か記事を作らしめ又算術に於ては生徒の在學出席の統計學資の計算貯金の利算より校舎敷地の測量等を實地になししむるが如し

然り而して農業科の如きは別に多くの地所を要するのみならず理科一通り了知するにあらざれば理解し難き事も多きものなれ高等科に至り初めて之を課して可なり手工科の如きは其費用少なきのみならず尋常科の初期より之を課するも差支な



きものにして實施すること易く且つ兒童の天性に適合し手指運用の練習に欠くべからざるものなれば之を置くこと實ふ必用のことなるべし尚此を置くときは他學科の聯進を補くること其効著大なりとす圖畫の如きも従来は山水風景を畫くは其主眼なるか如く常に習ふ所のものは破屋にあらざれを敗壞あり故に特更に空想上の繪畫多く其筆力の運用想像を寫すの練習ふは宜しけれども實地圖畫の効用上其利甚だ少きが如し寧ろ日用器物の圖人世須要の植物動物の寫生、製圖法、彩色法を練習せしむれを實用の利果して幾許ぞ

前陳の次第により小學校に手工科を置くの目的は兒童手指の運用工夫力、實行力の養成等に於て之を必要と認め課するものにして決して他日大工、鍛工、壁工を出さんとするの目的にあらざること明かなるべし而して庶物の成立、効用等も亦此手工科を教授することにて於て概ね之を示教するを得べし設令は剪紙、細工、ふ於て色別の觀念を與へ摺紙、細工に於て蟬、菖蒲、籠等の事を知り切紙、細工に於て幾何學的の形狀及器物、草花の事を知り粘土、細工に於て万物形狀の齊調を知らしめ兒童毎に見聞して記憶する所の事物を再想し之を實地に經驗して一層記憶性を

正確ならしむ尚高等科に於ては其寸法を測るに尺  
度定規の實用を示し寸方の割出し方を知らしめ形  
状を定むるには幾何畫法を應用し工具の使用上及  
物の斜面の理に於ける鑢の槓杆の理に於ける下け  
振、水準器の重力の理に於ける板を洒し鉄を鍛るの  
熱學の理に於るごとて理科の應用ならざるはも  
し加ふるに器物の製作ふ於ては美術の思想を煥發  
し畫學の必要を感じ又意匠を凝し勤勉忍耐ならざ  
れば能く緻密精巧なる物品を製出する能はさるこ  
とを悟るに至るべし

見よ兒童の自好んで作る所弄ふ所考ふる所皆是れ如

何なるものぞ紙を裁りて模様を作り器物を作り  
紙を折りて花鳥を模擬し板を切りて水車を造り土  
を固めて什器を模し木を刻みて模型を作る或は築  
き或は畫き或は削り或は塗る或は彫る其見し所考  
へし所のもの一として之を實行せざんば止まず之  
を實行して其成績を誓ひ尚思考を運らして之を改  
良せんことを計る或は作り或は破り其成功ふ至る  
まで未だ嘗て倦厭するの狀態を見はさず斯の如く  
兒童新奇の事に遭ひば直ちに模擬工夫せんと欲す  
るの念慮止まざれば智力能力亦之に伴ふて激發す  
るに至るべし



小學校に手工科を置くもの蓋し之を利用するのみ  
只其實行力を正當に成さしむるのみ兒童の天性に  
應じて手指の運用を發達せしむるのみ

或人曰く人間の智識は初め之を有形上より得て漸  
く上進して無形上に及ぼすものにして人世開化の  
模様亦之に異ならず故に其幼稚にして未だ智識の  
發達せざる時に於ては有形的教育最必要なり幼稚  
園の恩物に於ける是れ手工科の初歩なるものに非  
ずして何ぞやと又曰く生物學は觀察力と思考力を  
養成し手工科は思考力と實地力を養成すべしと又  
曰く手工科に三つの階級あり其初等のもものは専ら

手指の作用にて為すもの即ち粗糲なる道具を要す  
る時代とあり稍や進めば工具を要する時代即ち中  
等なるものと云べく其高等のものに至りては寧ろ  
智慮を要すべき即ち機械の時代となるものにして  
大學に至りて初めて此技を學ぶことを得べきもの  
なりと嘗て文部省手工講習會に於て講師上原六四  
郎君の講述せし事項の要領を摘出して之を示さる  
以て手工科教授の目的を知るに足るべしと信せり  
因て左ふ之を述べん

(第一)手指の運用を自在に——併せて視力腕力体力を  
養ふを目的とすべし

(筈) 手工ハ圖畫及數學と關係多シ故に事機ある毎に其理を實地ふ示シ又其應用を試むベシ

(筈) 圖畫若クハ雛形ふより物を作ラシむるに當り生徒の注意力と緻密なる思慮と正確なる志操とを養ひ併せて忍耐の氣象を養ふベシ

(筈) 器物の形狀を考へて兒童に美術の思想を起さしむベシ

(筈) 工藝の貴重すべきことを知らシむベシ  
又事業を課するに當り其選擇方ふ注意せざるべからざること及授業上の注意ハ左の如シ

(筈) 運動活潑なる業を擇ふベシ

(筈) 兒童の健康を害せざるものを擇ふベシ

(筈) 不潔なる業ハ避くベシ

(筈) 終始同一の事を繰返す業機織、木椀の如きものハ避くベシ

(筈) 應用の廣き業を擇ふベシ

(筈) 器械(インストリュメント)を以て作ることハ避くベシ

(筈) 分業法ふよるべからず

(筈) 兒童の体力に適するだけの業を擇ふベシ

(筈) 贅澤品、玩弄品の製作ハ避くベシ

(筈) 美術の思考に近ヨラシむベシ

(鑒) 簡單なるものより繁雜あるものに及ぼすべし

(鑒) 成るべく學理を應用せしむべし

(鑒) 製作品は成るべく下繪を作らしめ且つ圖畫に依り思考せしむべし

(鑒) 小細工の多き物品にして生徒の成し得べきだけの物を作らしむべし

(鑒) 材料は價廉にして製作の易きものを取るべし

(鑒) 生徒無用の競争心を避けしむべし

(鑒) 物品を製作するふ當り順序整頓をよくせしむべし

(鑒) 無益に材料を費やさしむべからず

(鑒) 就業中雜談及妄りに休憩することを禁ずべし

(鑒) 工具の使用方及其修理に注意せしむべし

(鑒) 器物の製作法を知らしむべし

(鑒) 塗抹料は用るしむべからず此を施せば其仕上けの成績を判別すること難き故なり

(鑒) 就業中卑陋なる舉動は避けしむべし

(鑒) 手工科時間へ成るべく授業時間の終りふ於てせしむべし是れ其工具の仕末方等ふ於て時間を要し後ることあるも次時間の課業に妨けを及ぼす如き患なきふよる

以上余は謫劣なる經驗を以て僅かに觀察し得たる



ものなれば其果して當を得たりや否や固より教育家諸君の高評を仰く所なり鮮良なる魚菜も之を食はざれを以て其真味を論すべからず若し其割烹宜しきを得ず或は人々嗜好の偏僻によりて其甘酸濃淡を評するか如きは以て正當の試験確實なる審査となすべからず乞ふ諸君之を實地に經驗し其利害得失の存する點に就て切に觀察の勞を執られんことを茲ふ本縣尋常師範學校附屬小學校に於て當時試験一つある所の手工科配當の大要を記し其授業方法を掲げて以て諸君の參考に供せんとするものなり聊か自序ふ代ふ爾云

課程配當の要領  
尋常科

第一學期 専ら手指の作用に依るもの

置箸法 形狀の觀念を得せしめ、排列の順序、物体の名稱、部分を知らしむ

貼紙法 前ふ同く且つ形ちの齊調、色種の配合を知らしむ

摺紙法 立体の觀念を得せしめ且つ諸物の名稱、部分、効用を知らしむ

第二學期 簡單なる工具、剪刀の如きものを使用せしむ

剪紙法 幾何學上の形体を知らしめ圖取の觀念及之によりて物体容量の割合を觀察せしむ

第三學期 稍使用に困難なる工具を使用せしむ  
鍍工法 普通鍍用金屬の一般性質効用を示し且つ之か使用法及其理法を示す女子に別  
に繡紙法を課す

第四學期 圖畫に依りて形体を作することを練習せしめ且つ手指の運用を種々練習せしむ  
模型法 (夏時に於てせしむ) 物体の模型を作らしむ

刀工法 (冬時ふ於てせしむ) 裁紙、板彫り、木竹削り物、彫刻等の一班をなさしめ且つ小刀の種類性質、用法を知らしむ、女子ふは編物の初歩及運針法を課す

高等科

第一學期 (男) 木工の初歩、木工に用うる普通工具の種類及用法 (女) 運針法、裁縫の初歩、編物の種類  
第二學期 (男) 金工の初歩 (ブリキ細工) 普通に用うる木材、金屬、石類の性質効用の概畧 (女) 裁縫、編物  
第三學期 (男) 木工簡易なる器物製作 (女) 裁縫、縫

取造花の初歩

第四學期 男木工(接合法、堅木細工、金工、打物、鑄工)

鍛工の一斑 (女)裁縫、繡、編物、造花

女子手工科教授方法は別ふ之を掲けず只其課程の大要を示せしのみ

尋常科第一學期 (專手指の運用による)

○築造 又置箸法

方一分或ハ一分五厘ある棧（材料ハ堅木又ハ金屬を以て製造したるもの）にして長さ五分一寸、一寸五分、二寸、三寸、四寸の種類に分ちたるものを以て卓上に排合して種々の模様を造らむ其模様ハ重に家屋門牆ハ形取り或ハ物体の形狀幾何學上の形狀等を作らむ幼稚園ハ於て為さむる置箸法より一層高尚と爲すものなり又間々曲線形（最も教師圖ハ一線を引く毎ハ生徒ハ一筆を排べし）のものを交へてなさむるも宜し

此教ヘ方ハ教師を作らむんとする形狀を黑板に描き（最初ハ教師圖ハ一線を引く毎ハ生徒ハ一筆を排べし）め稍や熟するハ於ては番号を附け或ハ口告によりて之ハ排列の順序を知らむ



て之れに倣へ排列せしむ已に形狀を作りたらば其  
形ヲを各自の手帳ふ寫し取らしむべし(畫學)

(注意) 形狀(方形、圓形、長方形、三角形等)の觀念を得せしむべし併

しなから幾何學上の説明に傾くべからず 排列の  
順序を誤らしめざる様ふすべし 時々生徒の工夫  
を以て各自思ひくの形狀を作らしめ或は教師より  
ある物の形狀を説きて之を作らしむることをなす  
形どりたる物体の名稱及其部分を能く知らしむ  
べし

○又法 方三分或は五分あり長さ一寸、一寸五分、二  
寸、三寸、四寸等の種類ある角材を用ゐて之を疊積し  
て形狀を作らしめ此れにも亦彎形のものを加へて  
用ゐしむ然れども此れは多分の材料を要するもの  
なれば生徒の數多きに於ては容易ふ行へ難かるべ

(第一例)

○貼紙細工 形の排へ方、色取の演習

裏面にアラビヤゴムを敷きたる色紙(幼稚園用)に  
を細く或は種々の形狀(方形、長方形、三角形、菱形)に切りたるもの  
を用ゐる之を白紙上に貼附して種々の模様を造らし  
む之を貼るに用ゐる臺紙の罫を引かざるものたる  
べし

色紙へ通常赤青黄緑紫等のものを用ゐる其色の名稱豫て能く之を知らしめ置き模様を形造らしむるに當り色種の配合をよくせしむることを教ふべし此教へ方ハ教師着色白墨を用ゐて豫め作らしめんとする形狀を黑板に描き配列の順序と色種の名とをしらゑめて後之をなせしむ其作りたるものハ手帳を出して書取らしむること前同ト

〔注意〕 形チの均齊を知らしむべし（設令バ形狀中の左りを三角とすれば右又之と同く上に凸形を作れば下のも亦同狀をなせしむる等の如し） 色彩の觀念を得せしむべし

色種の配合を知らしむべし（特ニ女子ハ於てハ他日衣服の綯柄等其色種の配合如何よりて大小觀を異にするものなれば深ク意を留めしむべきハ大加のことなるべし）

（第二例）

○折り紙細工 方形或ハ其他の形狀を有する白紙を折り摺たんで種々の物体を形造らしむること從來本邦兒女遊戲の間に行はるゝものと異なることあり唯なるべく其簡易なるものより順次に難雜なるものに及ぼすべきハ勿論折り方ハ於けるも最初折りたるものを應用しつゝ次第ハ他物に及ぼさしむる様導くべし

此教へ方ハ教師初めに大なる紙を以て一ヶ所折る毎に生徒をして之に倣へ成さしめ漸く進みたるときハ其形狀を黑板上に描きて折り方を示し之を作

手工藝

### 第三例

を使用せしむ

十六 己卯 十二月 亥



する形状の部分在此紙中より割出して截り作らう  
め其一部分づゝに仕上りたるものゝ更に白紙上へ  
組み立て貼附せしむ此圖を畫くに豫め其各部分  
の割合を見計らへ全体形状のなるべく大なるもの  
を以て宜しとす故に其割出し方いなるべく生徒自  
の工夫に依らしむるを要す

#### (第四例)

(注意) 下繪を畫かしむるに全体紙幅に應じて  
其割合を見積り成るべく大なるを宜しとすべし又  
實物の形状を模造せんとする時に正寫投影法によ  
らしめんとすを要す(本邦從來の見取圖の概<sup>ネ</sup>擬投影

法よるものかれは其誤想の弊害を除かんが爲め  
勉めて之を避くるの策なり)又下々繪を畫かしむる  
時能く注意して決して字消ゴムの如きものを使用  
し塗抹等の事をなさしめざる様習はしむること緊  
要なり用うる鉛筆は其心墨の先を僅かふ出すに止  
めしめ鋭尖に削らしむべからず是れ其折れ易きを  
防くが爲なり

紙を截るにいはるべく剪刀の尖頭部を使用せしめ  
截り斷たずして徐々に次へ次へと截り目を接續せ  
しむる様なさしむべし否らされば其截り斷ちたる  
所より多數の角を生ずるの患あり(但し極めて細か

き部分ハ此限りにあらず又截り取るとき下々畫に従ふことを勉め妄りも修正しつゝ、截ることなからむる様に注意すべし是れ紀律を守るの氣風を養ふに於て大切な事なりとす

○厚紙細工 通常の厚紙(稍厚き西洋紙を用うるも宜し)を以て極めて簡易なる立体形の物を造らしめ或ハ折り紙帳簿表紙手易き小箱等の作り方を習はしむ之をなすにハ豫め紙上ハ定まりたる寸法によりて圖取りをなさしめ剪刀を以て截り取り其組み上げ接合する所ハ糊紙(別ハ強韌なる紙にアラビヤゴムの如きものを敷き細く截ちたるものを用ゐて確々接き合さしむるなり)

### (第五例)

#### 同第三學期

○針金細工 工具ハ矢床五寸のもの一挺切鋏同く一挺尺度一個小金鏈一挺とす

最初一尺ふ付目方四五分ある細き黃銅針金を用ゐて其伸一方切り方曲け方を習はしめ之よりて圓形楕圓形S字形等の連鎖を造らしめ漸々七分八分或ハ一寸のものを用ゐて種々の物を造らしむ其稍仕用ハ熟したるに於て更に鍍針金を加へて之を用せしむ尚極めて細き針金及木片ブリッキ等を交へ

て器物の模形等を造らゝむべし  
此際黄銅銅鍍の性質の概畧を知らゝめ其針金の効  
用を示すべし

(注意) 針金を用うる初めふ之をふまさざれば堅  
脆に―て使用に困難なり其方法ハ藁を焚きたる火  
中ふ入れ其赤熱―たる度を計り之を出―黄銅なら  
ば直ふ水中に投―て冷却せ―むるも宜―けれとも  
鍍ハ故置―て漸くふ之を冷すべし  
針金を伸―或ハ曲けるふ幾度も仕直―のせざる様  
ふ取扱え―むべし是れ其質をあ―くするのみなら  
ず仕上げふ於て見苦―くなるハ故なり又之を打つ

こと甚た烈―ければ其質堅脆に變するの患あり宜  
―く注意せ―むべきことなり

銅の針金ハ人身ふ害を與ふるの患あるふより之を  
使用せ―めざるを宜―とす又矢床を使用せ―むる  
時之を移動せ―めず針金の方を移動―つ、物形を  
作ら―むる様に熟せ―むるを要す

### (第六例)

#### 同第四學期

#### ○粘土細工

工具ハ竹篋の數種、尺度一本、練板(ブリギ製)一枚  
置板一枚、定規材一本、規一挺、海綿(水濕を含むも



のならば布巾の類ふてもよろし布巾各一個を要す

材料ふい瓦師或は土偶師等用うる能く練りたる粘土を以て之を貯ふるに時々水濕を與へて乾固せざらしむべし又通常の粘土を用ゐんとならば之を搗き混合物を去り能く練り合せ少量の細砂を加ふべし

粘土細工ハ之を三種ふ別つべく即ち彫り抜細工、置上細工、彫り出細工とす

彫抜細工とい最初粘土を以て一平面体を作らしめ此板土上ふ種々の模様を畫き之を彫り抜き作らし

むるなり此時ふ於てなるべく篋先を使用せしめ且つ粘土の練り合せ具合を了知せしむべし

### 第七例

置上細工とい初めに土板を作り置き此上ふ別に模様的一部分つゝを作りたるものを一つづつ、排置し組み立て、全体を造り上くるの法なり此れをなすとき其土板の表面及此上ふ排置する模形の裏面即上下の接合面の篋を以て縦横ふ搔き少く水濕を與へ以て接合するとき乾燥の後離脱するの患な

### 第八例

彫出細工といひ粘土上に諸種の模様を彫刻し出すの方法よりて建築ふ於て壁間の粧飾に用ゐるある如きものなり又果實草花等の形状より日用器物人体の部分等の模形を作りしむるも宜し此れを成すに必要なくとも篋の三種以上を要すべし即ち先端の鋭尖なるもの同平縁なるもの及匙形のものなり

### (第九例)

総て粘土細工をなすふ於て其模様ハ一々之を畫かしむるときハ甚だ時間を費やすの恐れあるか故よ之を省畧せんため豫め厚紙或ハブリッキよて模型を造り置き之を用ゐて其形状を模寫せしむべし其模

型に内型と外型とあり立体形の外圍より外型を用ゐる彫抜等の形状ハ中型を用ゐて作らしむべし例へば□の如きものを作るより外型「」を用ゐる内型に「」を用ゐるが如し

(注意) 粘土ハ余り堅からず柔かふ過ぎざるを宜しとす又之ハ水濕を與ふる屢となれど遂に柔かふ失するの患あり能く注意せしむべし又其能く練り合ふことを怠るべからず若し之ハ紙スタを混すれば容易く破壊せざるの効あれども粘土固結の力強く物体を製作するより於て細工ハ難きの不便あり製作品を永く保存せんより之を火中に焼き固むる

を宜しとす此れをなすふい其火中より出すの際木片類の如く熱の爲め焚け薫るものふ接すべからず其表面是れかため烟汚せらるゝことあり

製作品ふ彩色を施さんと欲せば石膏或ハ糊粉ふ膠を混へて溶いたるものを塗りて白き下地を造り其上に種々の色料を施すべし

### ○小刀細工

工具ハ切り出し小刀及五寸の切鋏一挺  
材料ハ竹木、厚紙、薄板の類を用ゐる竹ハ唐竹カラタケと稱するもの木ハ檜或ハ厚朴、櫻木、松を以て宜しとす

最初ふ刃物一般の効用製法修理等よつき注意すべき事を説き示し次に小刀の種類効用及砺石の種類使用法の概畧を了知せしむべし

實習ふ初め釘箸等を削り作りしめて小刀の使用方を練習せしめ漸く削り方の熟練したるに於て稍複雑なるものふ及ぼすべし又其研き方修理に善く注意せしめ切れ味ふ良否あることを自ら覺悟せしむる様導くを緊要とす而して竹と木と互に相交へて物品を製作せしめ小刀の使へ方を種々に利用せしむべし

### (第十例)

厚紙の模形を彫り取らゝむるに、小刀の尖端を使用せしめ、其模様になるべく生徒自身も畫かゝむるを宜しとす。或は模型を與へて之を模寫せしむることもあり。此時粘土細工に用ゐる模型を作らゝむるを便なりとす。又幾何學上の立体形及小箱類、漆形紙を彫り取らゝめ、他日高等科に於てブリキ細工をなすの階梯として種々の物体を作らゝむることあり。此時厚紙を切るに、鋏刀を使用せしめ、其接合に別な接合用紙（第二學期に用ゐたる糊紙）を用ゐらゝむべし。

### 第十一例

（注意）小刀を使用するに、能く注意せしめられ、誤て身体を傷くるの恐れ、決して妄り、之を使用せしめざるべく、又之を持ち扱ふに、布巾様の切れに包み置くと、きた持參するも便あるのみならず、其布巾に兼て研く際、於て之を拭ふものに代用し得べし。別に削り臺圖の如きものを用ゐるときは、小刀の刃先

前面

側面



よりて卓等を損傷することを

防ぎ、尚削るも易き便あり。

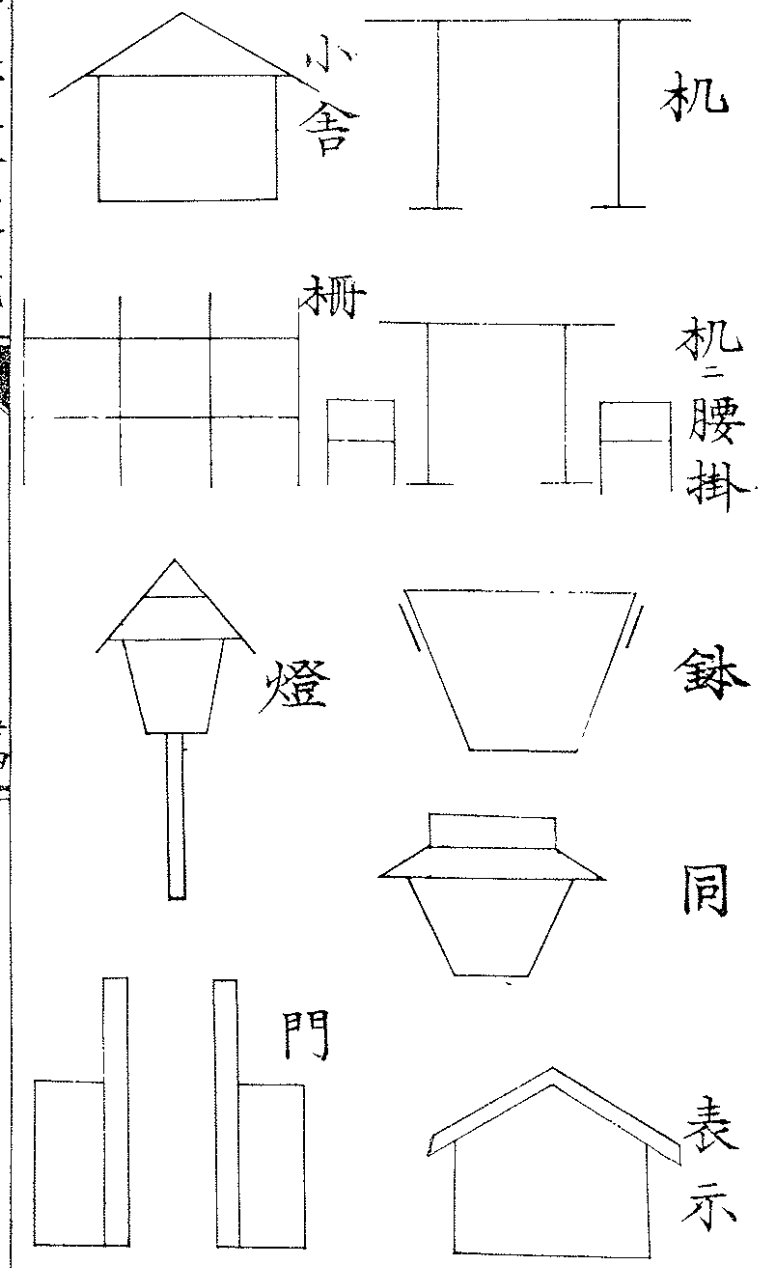
小刀を研くに、其刃先のなるべく同一の角度を保たしむる様注意せしめ、刃裏に極めて平面ならしめ



以て其誘導面なることを知らしむべし又刃の角度も其用うる目的よりて鋭鈍の差別あることを了知せしめ刃の附け具合を示すべし

第一例

図形ノ大小ハ適宜ニテ定ムルモ宜シ只形状ノ概畧ヲアススニ止ルモノナレバ其心ヲ以テ看ラレシコトヲ希フ(以下同ジ)

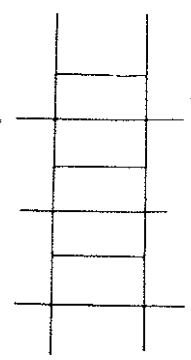


手工教受去

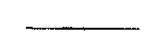
廿四

中田書店藏板

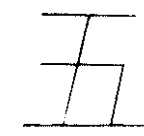
梯子



一字



五字



八字



A字



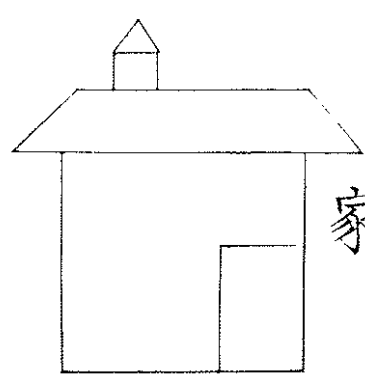
E字



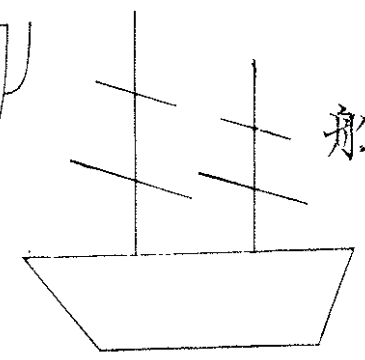
H字



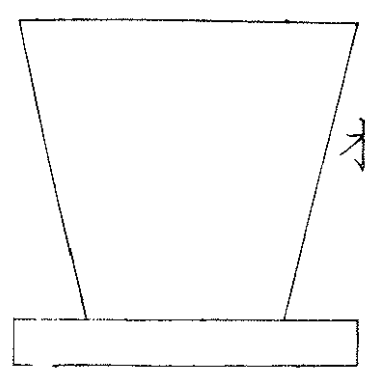
家



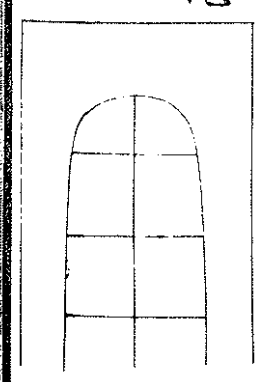
船



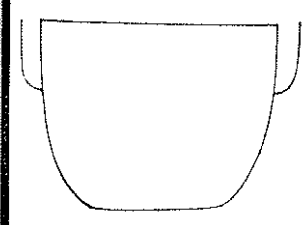
桶



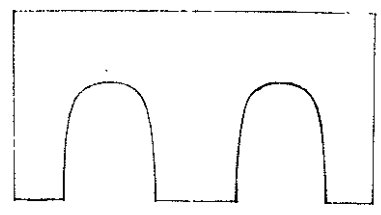
窓



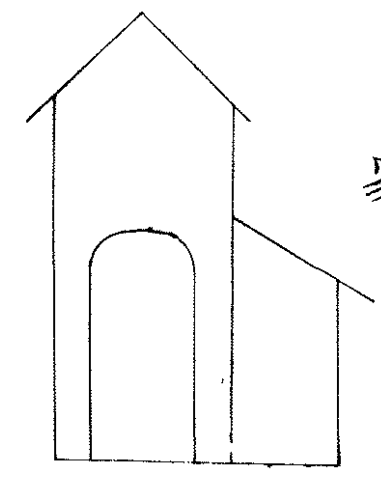
鉢



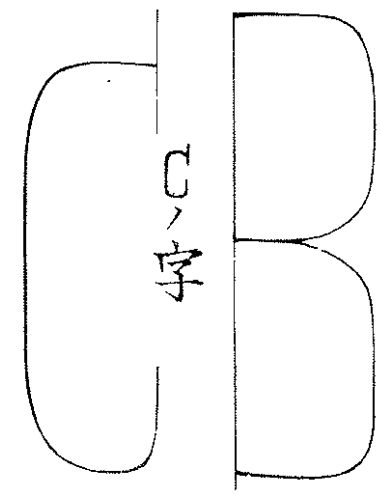
竈



家



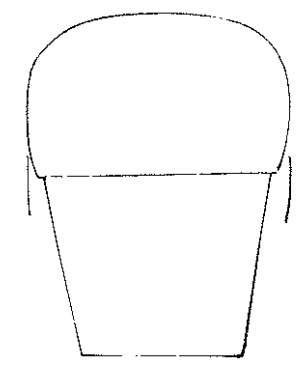
B字



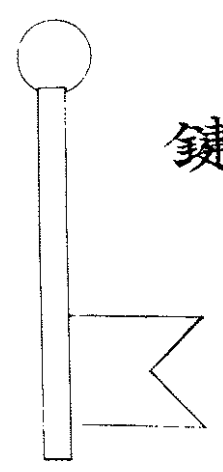
C字



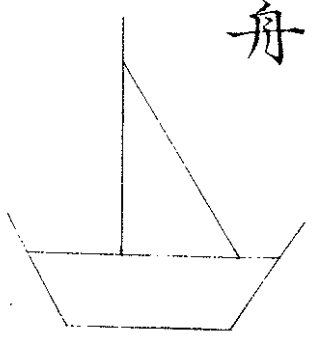
手桶



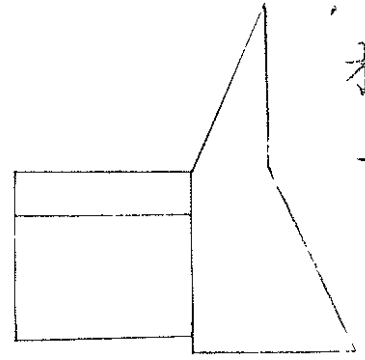
鍵



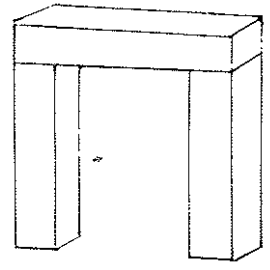
舟



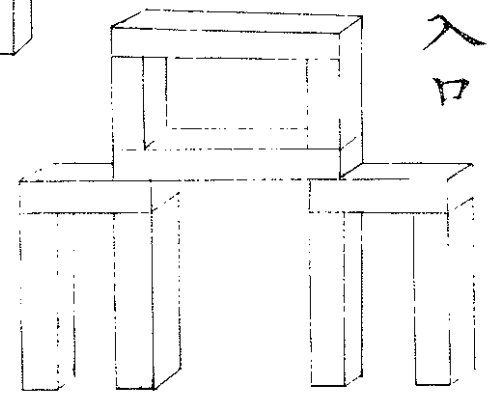
椅子



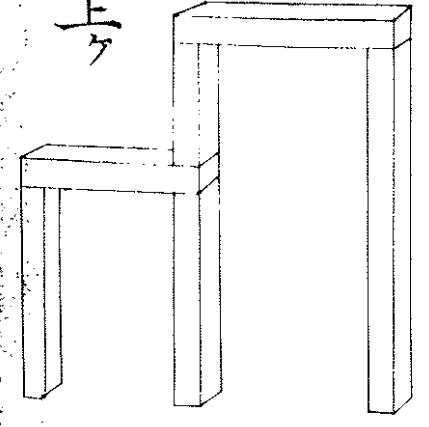
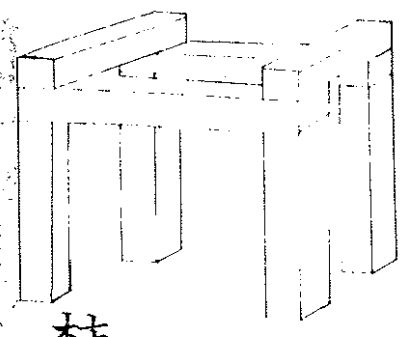
戸口



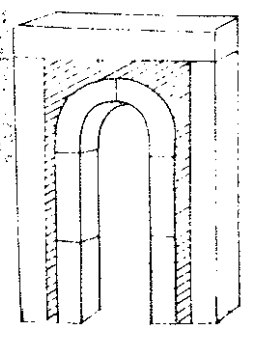
入口



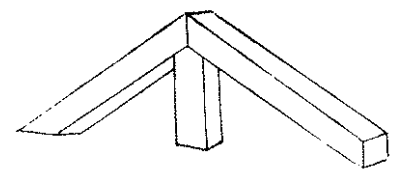
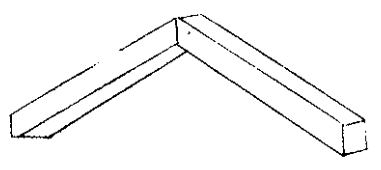
柱組上ケ



アーチ

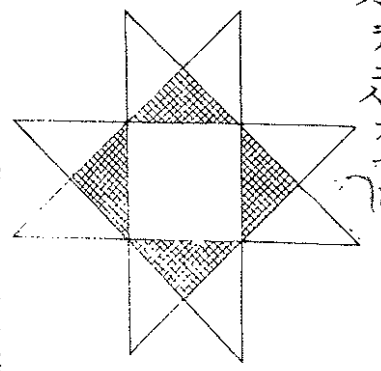
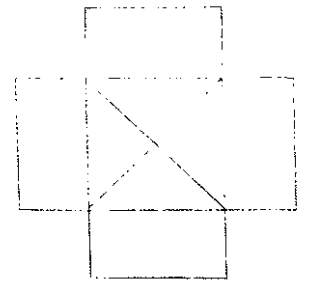
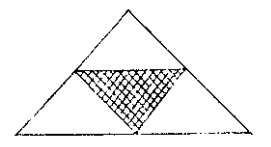
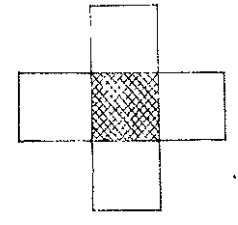


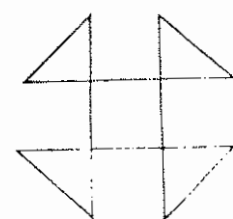
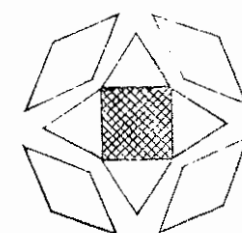
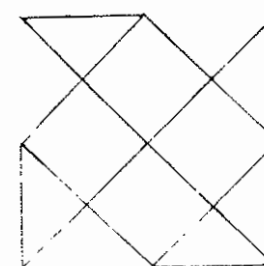
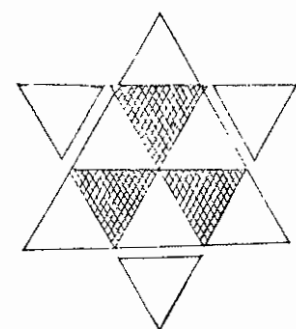
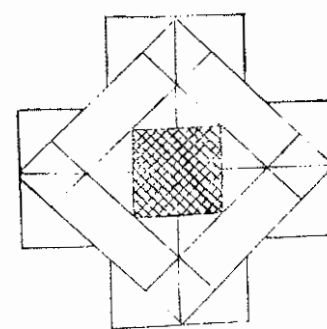
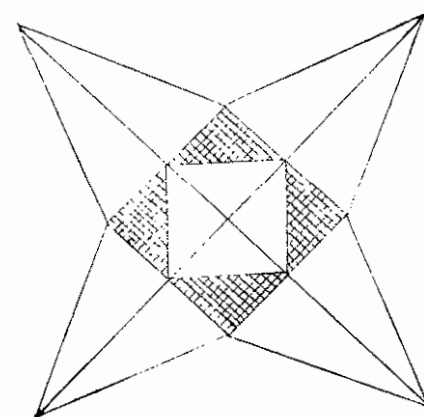
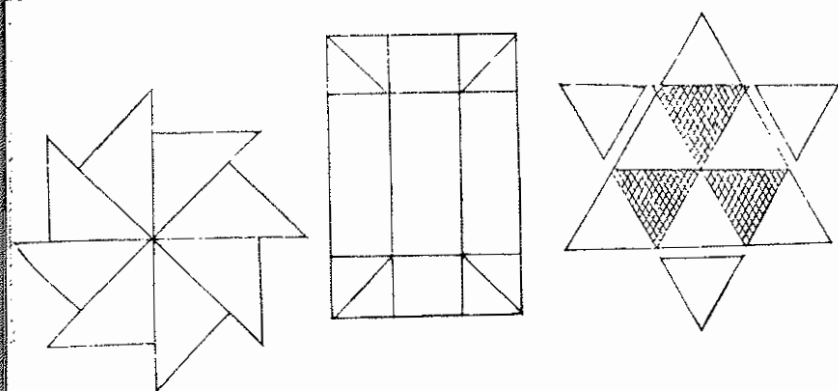
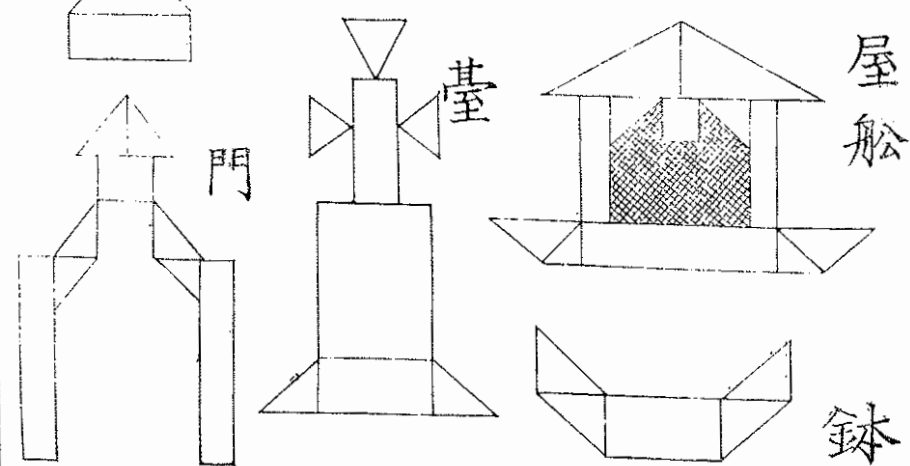
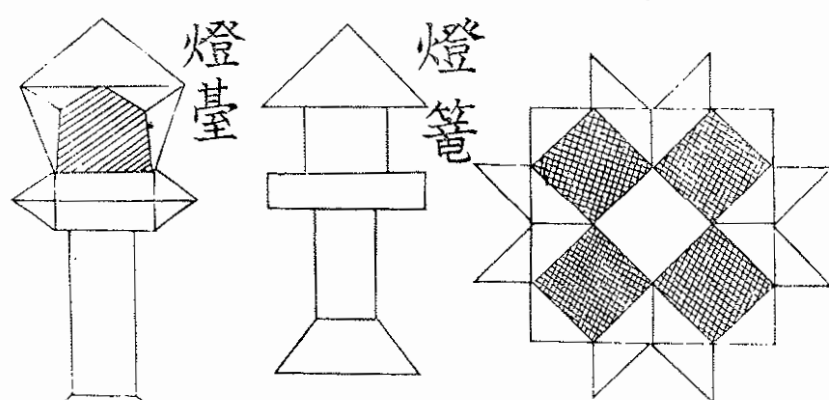
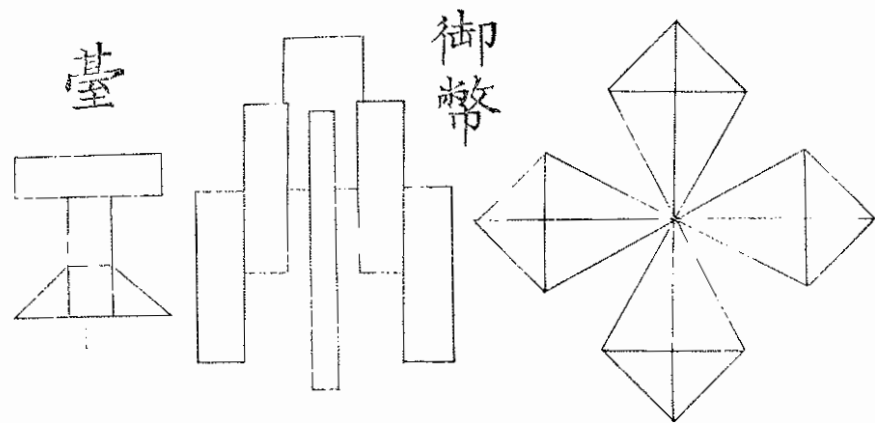
屋根



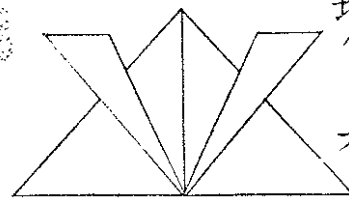
第二例

臺紙ニ貼ルナリ黒線ノ處ハ其空處ヲ示スナリ

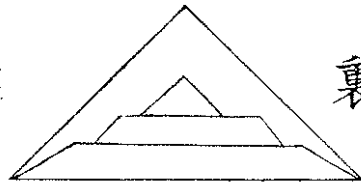




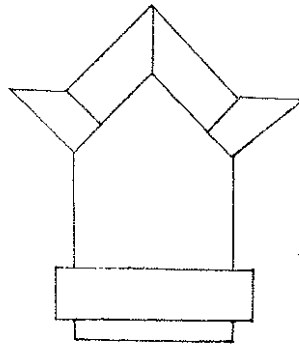




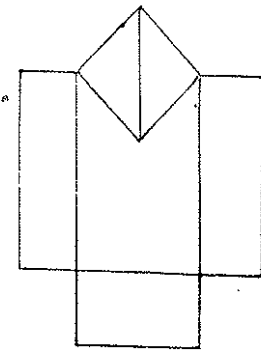
堦表



裏



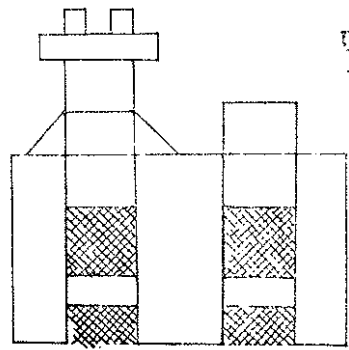
烏帽子



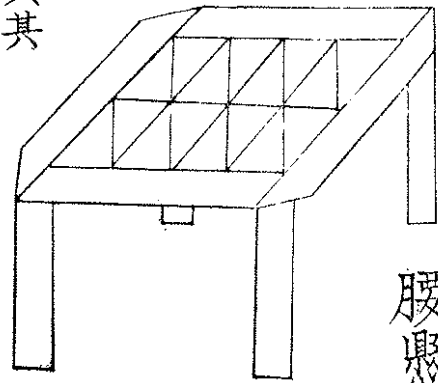
人形

第三例

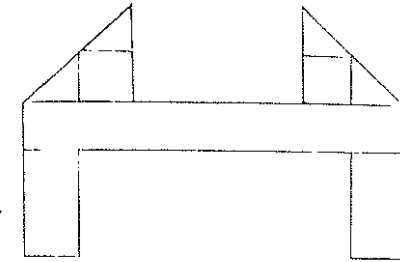
折リ方ハ一々之ヲ示サズ只其  
形状ト順序ヲ示スモノナリ



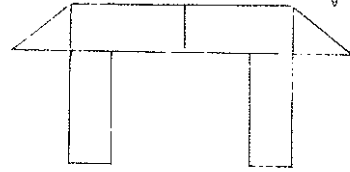
竈



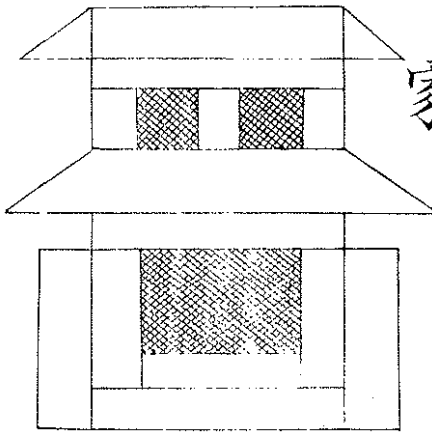
腰懸



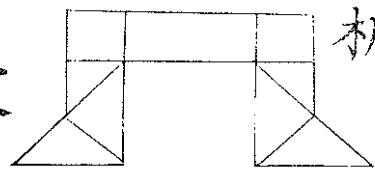
寢臺



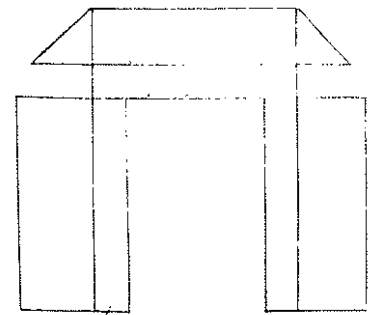
机



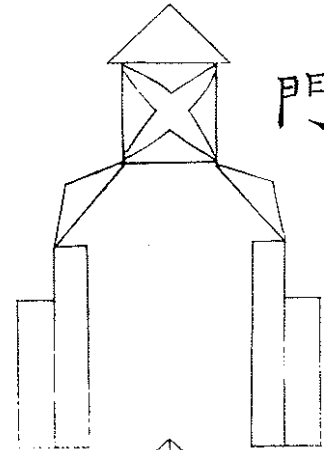
家



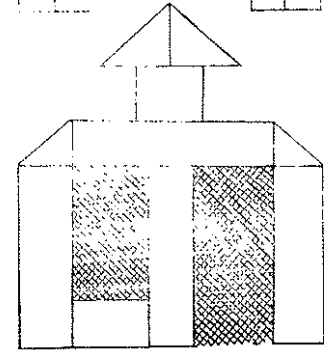
机



門

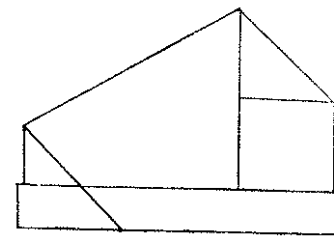


門

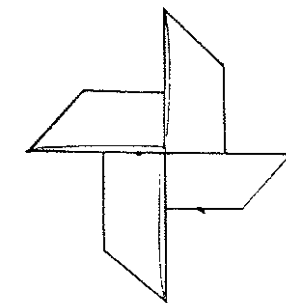


家

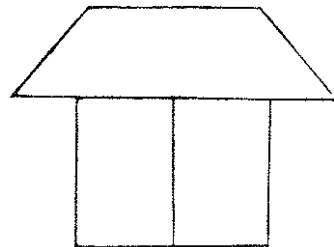
烏帽子



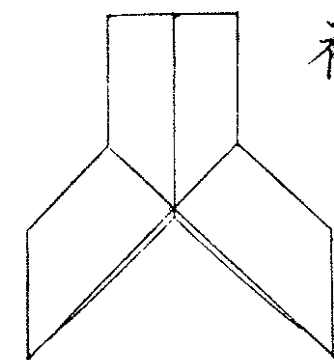
風車



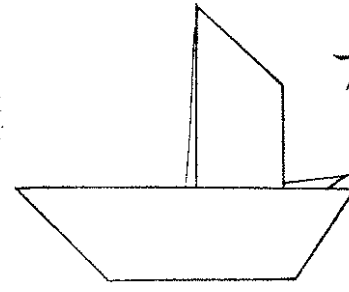
家



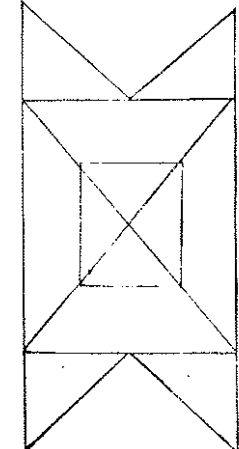
袴



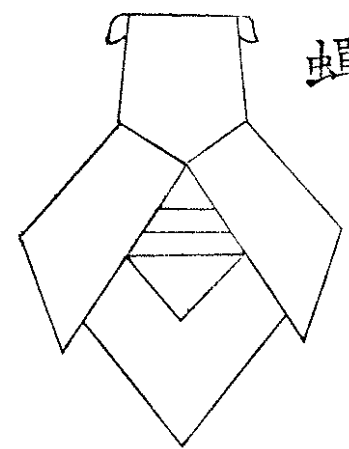
舟



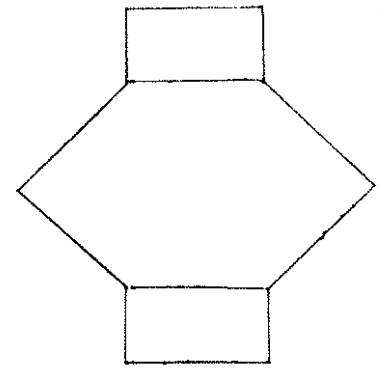
額



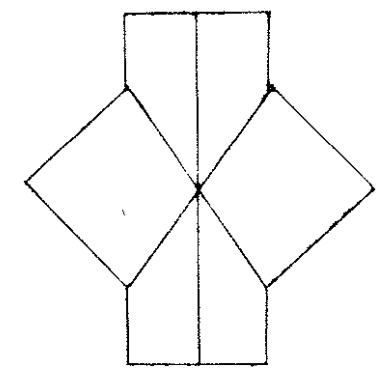
蟬



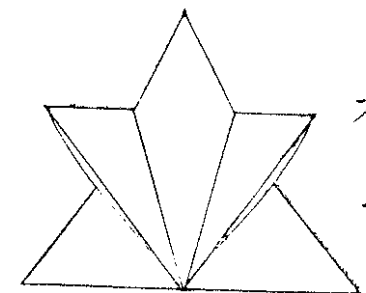
熨灯表



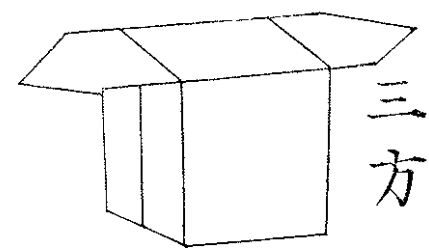
裏



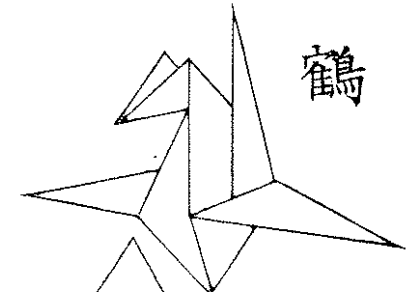
福助



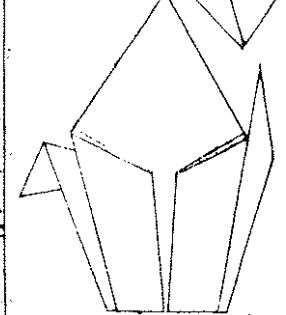
三方



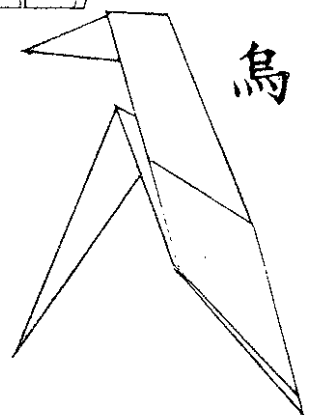
鶴

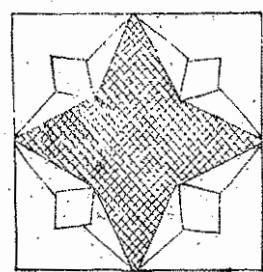


雀

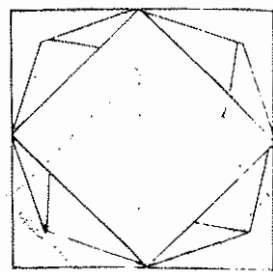


鳥

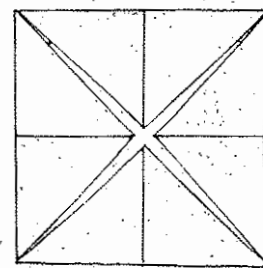




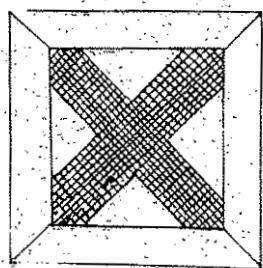
(1) 表



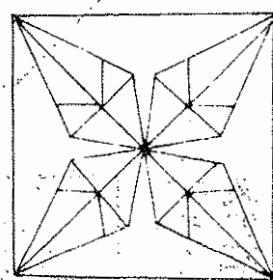
裏



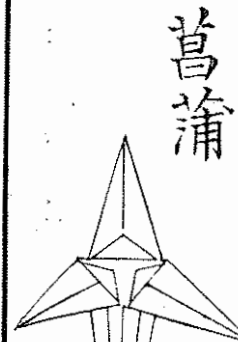
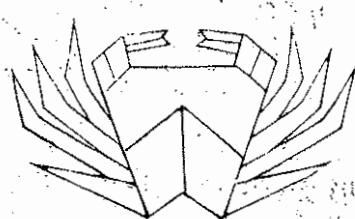
(2) 表



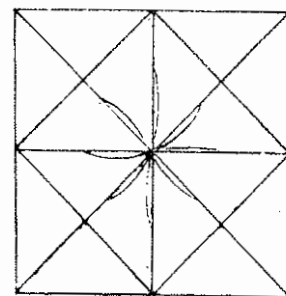
裏



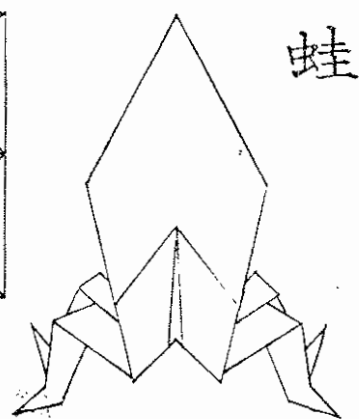
蠅



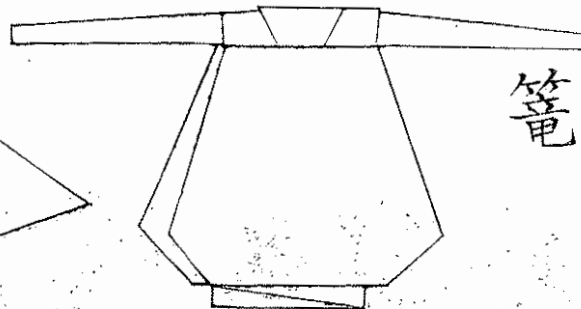
菖蒲



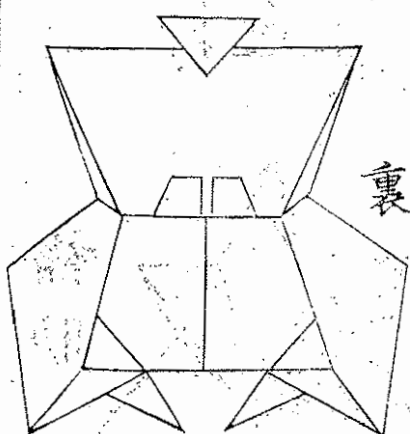
蛙



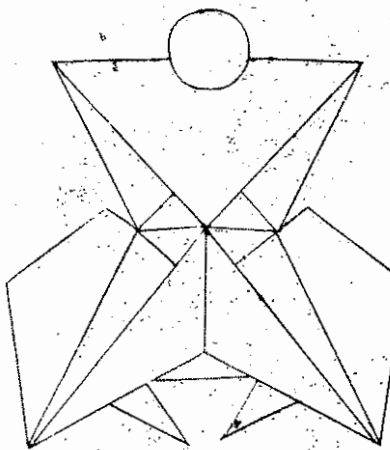
鶴



籠



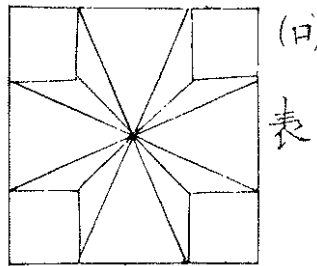
裏



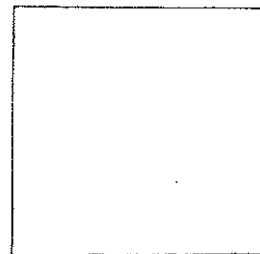
福助

表

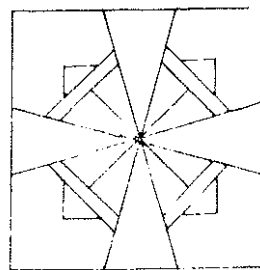
三角ノ紙ヲ以テスベシ



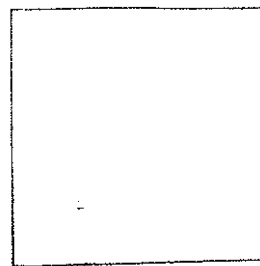
(口) 表



裏

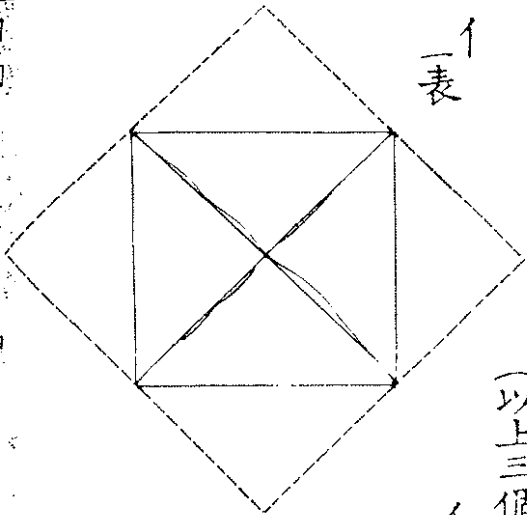


(口) 表

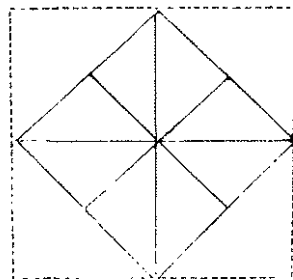


裏

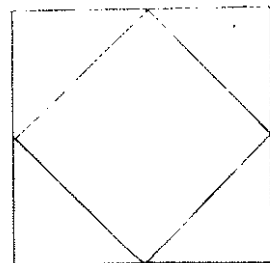
(以上三個ノ折り方ハ左方ニ之ヲ示ス以テ知ルベシ)



一表



二表



三表

四隅ヲ中央ニ折り摺ム

アモノヲ裏返し  
又四隅ヨリ折り  
タム

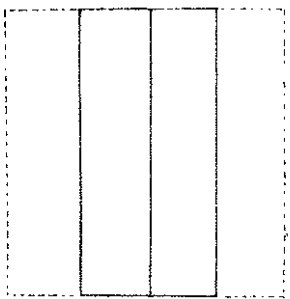
ニラ裏返しテ四方ノ  
片紙ヲ半折シテ圖ノ  
如クシ後(ハ)圖ノ如キ  
形ヲ造ル

口 (一)

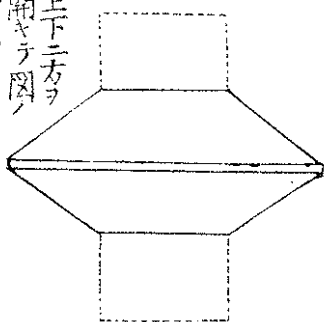
口 (二)

口 (三)

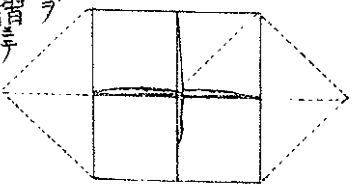
ハ (一)



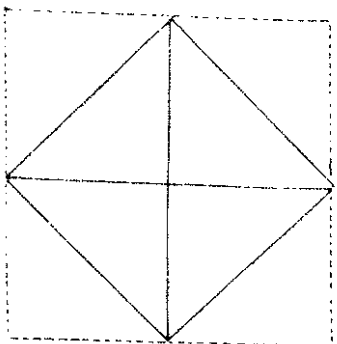
両方ヨリ二分ノ三  
折り合ス



上下ニ方ヲ  
開キテ圖ノ  
如ク摺ミ上ク

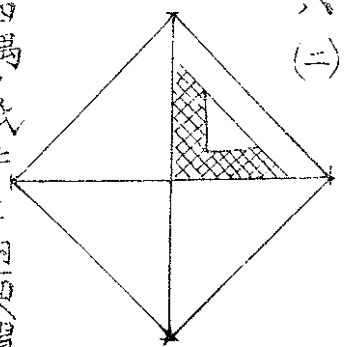


四隅ヲ  
折り摺ミテ  
重ネ圖ノ如クシ以テ  
(ハ)圖ノ形ヲ造ル

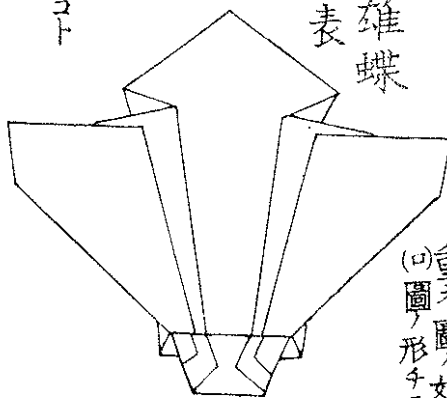


四隅ヨリ中央ニ折り摺ム

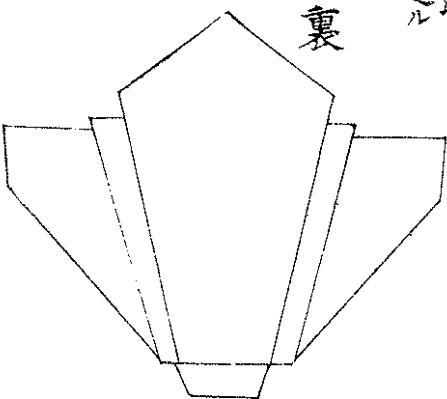
ハ (二)



四隅ノ紙片ニテ内面ノ摺ミ区ヲト  
圖ノ如クシ以テ(ハ)圖ノ形ヲ造ル



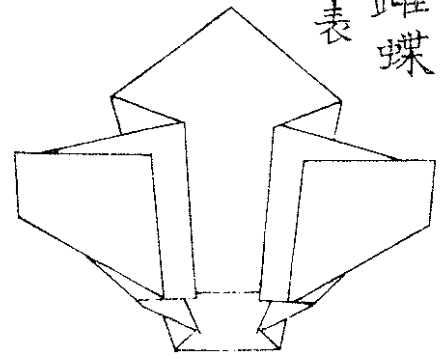
雄蝶 表



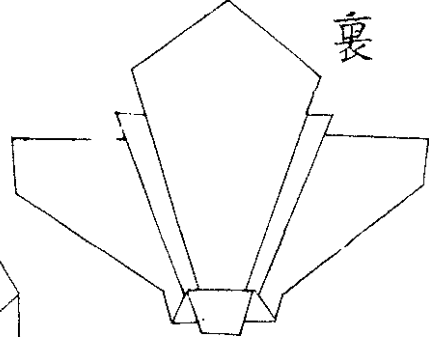
裏



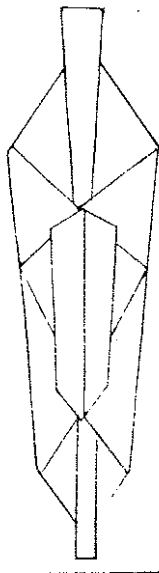
雌蝶 表



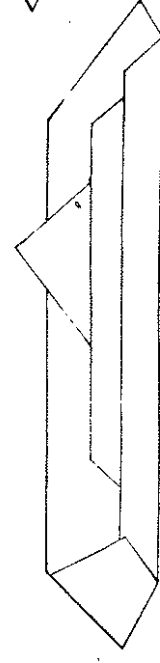
裏



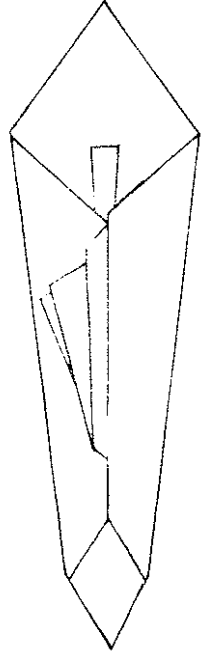
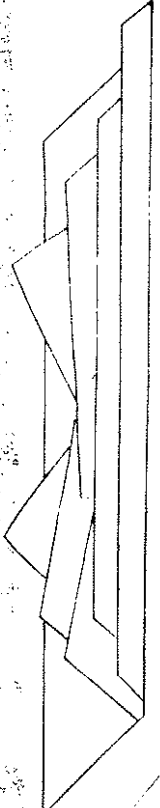
熨斗



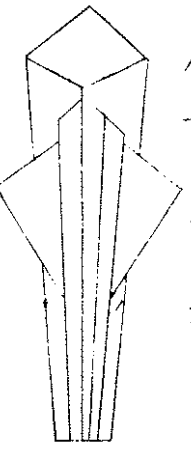
帶包



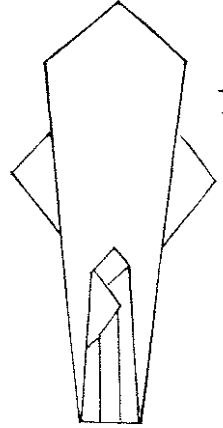
板物包



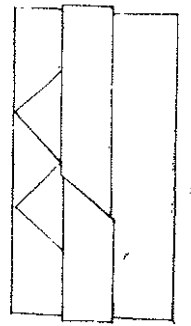
扇子包形表



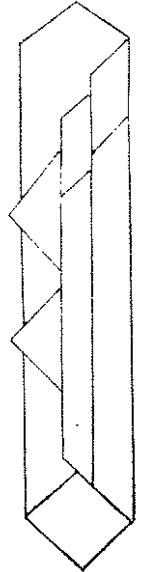
裏



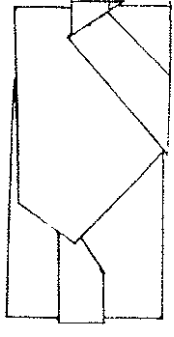
塩包表



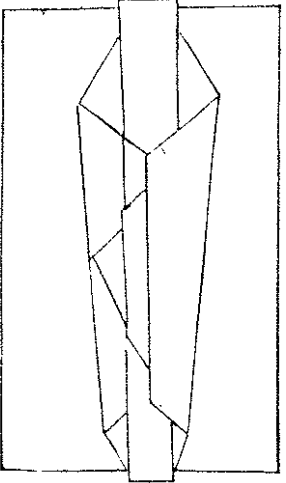
筆墨包物



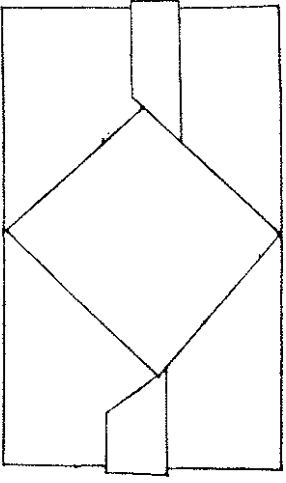
裏

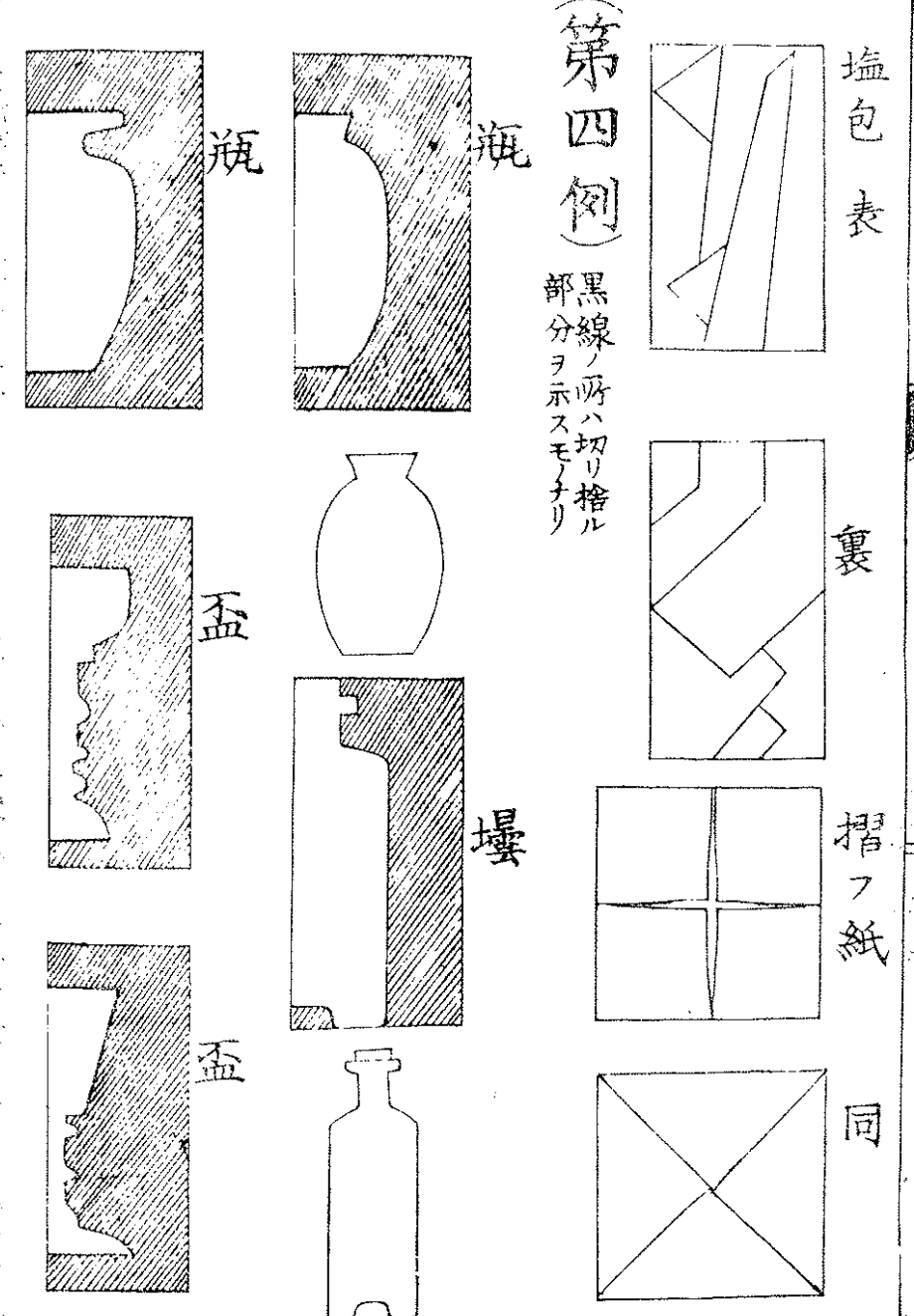
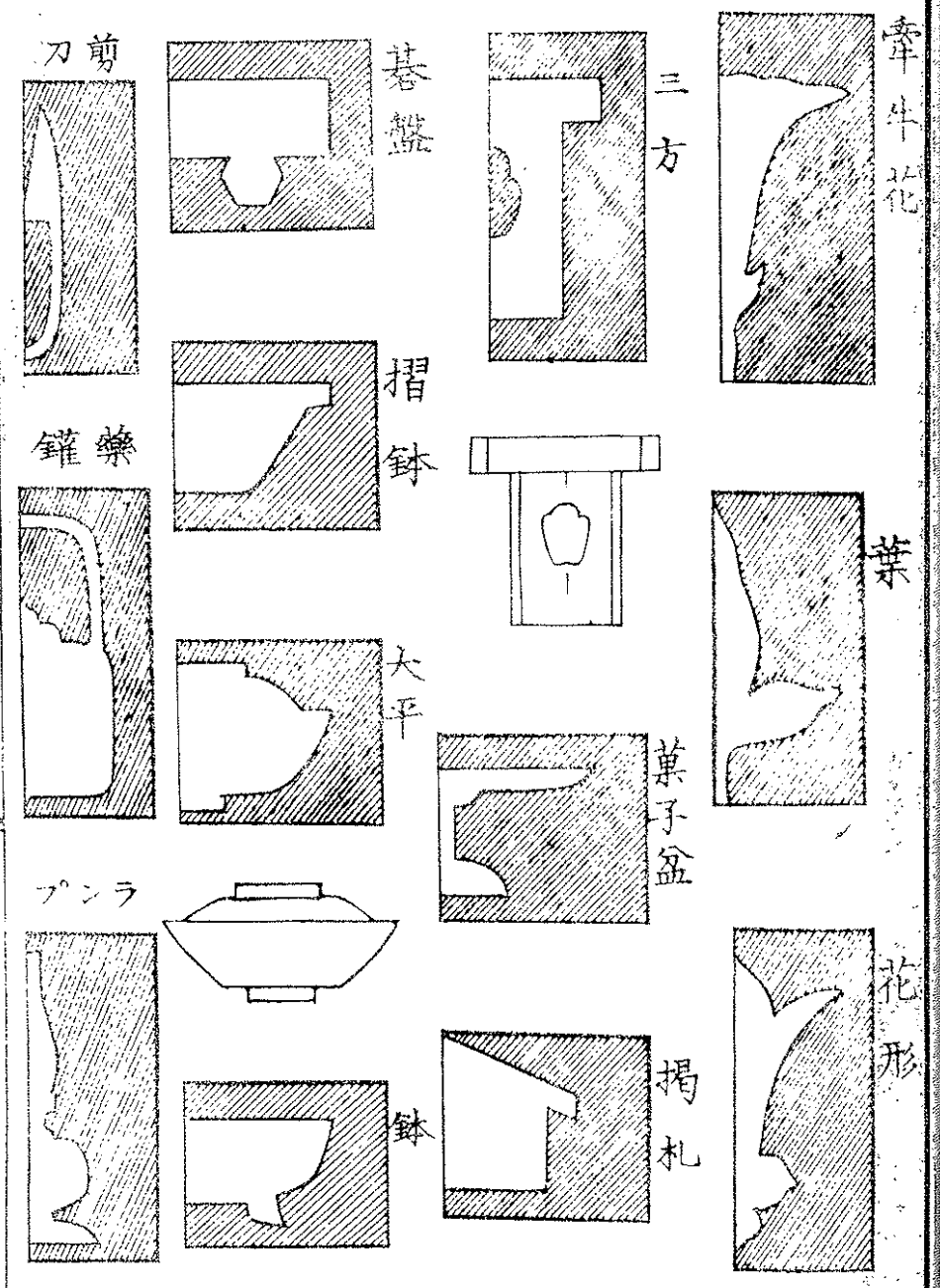


塩包表

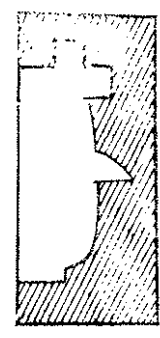


裏





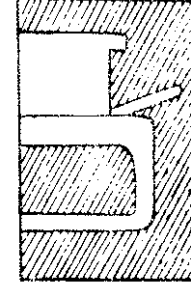
金



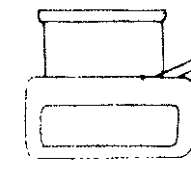
茶金



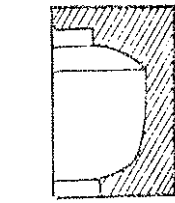
櫃及臺



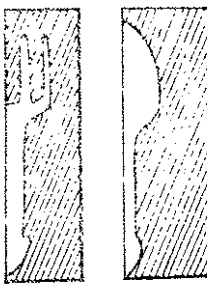
燈籠



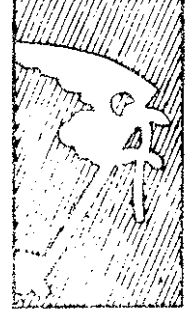
碗



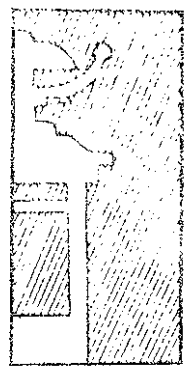
叉肉 匙



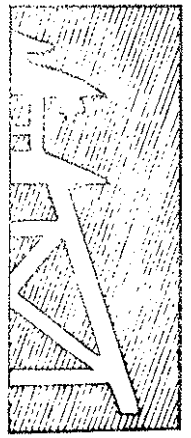
形扇



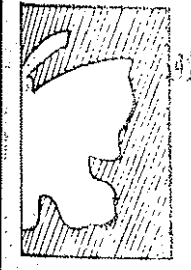
臺鐘



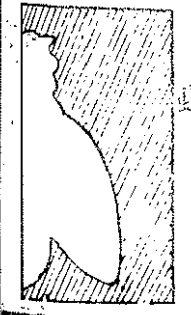
樓見火



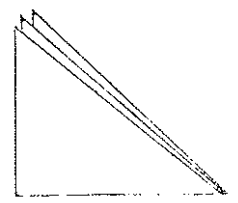
蝶



蟬

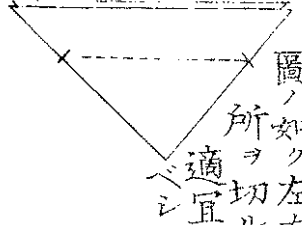


(正方形ヲ作ル法)



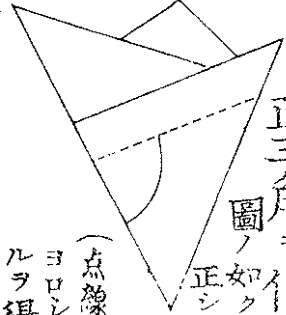
最初紙ヲ  
四ツ折トナシ  
其折目ヲ正  
シクナシ次ニ

正方形ハ四邊同長ナレバ



圖ノ如ク左右長サ均シキ所ニ印ヲ附ケ此点線ノ  
所ヲ切ルナリ但此印ヲ附クルニハ二ツニ折テ  
適宜ノ所ニ切目ヲ入ルレハ易クナシ與フ

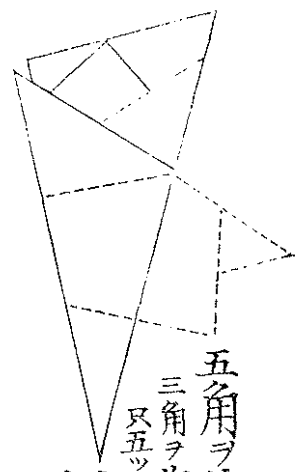
正三角ヲ作ル方



圖ノ如ク二ツ折トナシタル紙ヲ  
正シク三ツ折トナシ其辺ニ  
於テ直角ニ線ヲ引キ  
点線ノ如クヲ引キ  
(点線ノ代リ目ヲツクルモ  
ヨロシ)此レニ沿フテ切レバ作  
ルヲ得ベシ

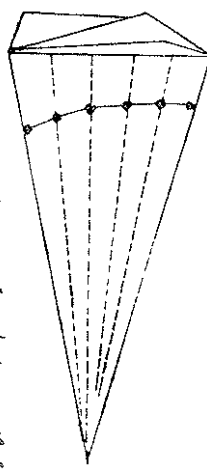
圓形ヲ作ル方

前多角形ノ數多クナルベク  
角ヲ削ルベク務ムレバ遂ニ  
圓形トナリ得ベシ



五角ヲ作ル法

三角ヲ作ル法ニ同シ  
只五ツ折トナスナリ  
六角七角皆同様  
ナリトス



此他長方形、直三角形、弧三角形等ハ  
此レニ準シテ作り得ベキナリ

紋形

一ッ折

三ッ星一文字

おもだか

五三桐

二ッ折

室  
おまび

かさね  
おけた

花ひ

もつちう

三ッ折

七星

大の字

むすび  
かいしと

かたはみ

三ッ折

四ッ折

四ッわ  
ちがひ

四ッ  
もみぢ

九星

もつ  
あう

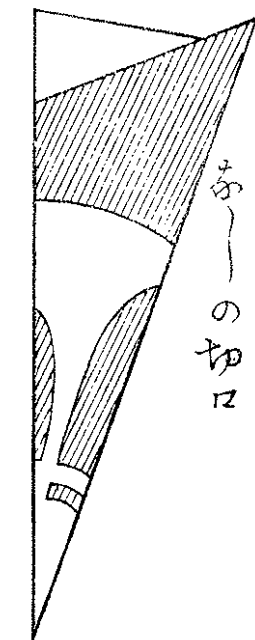


五ッ折

かげさくら



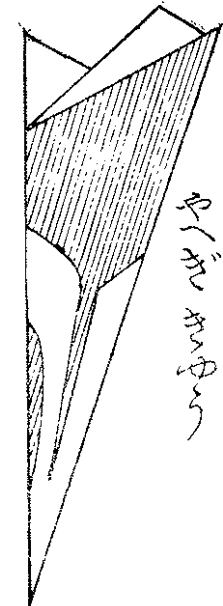
あーのち口



かげききゅう



やへぎきゅう

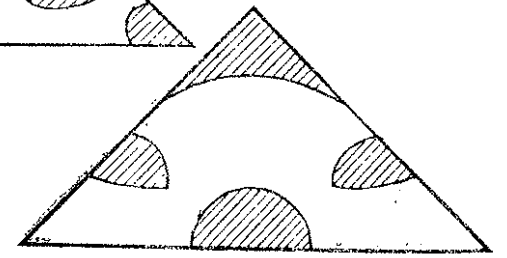
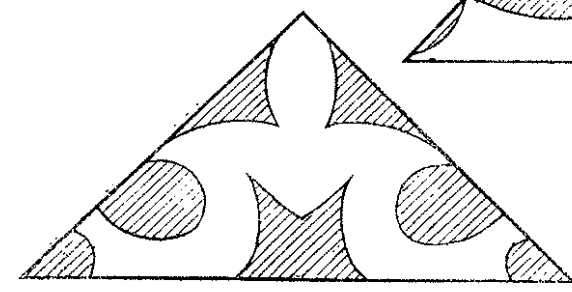
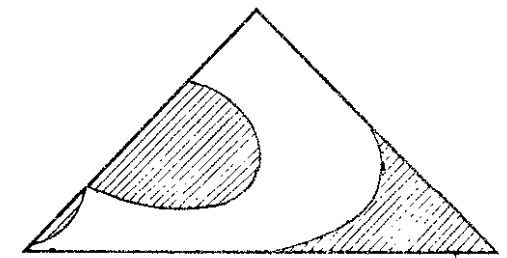
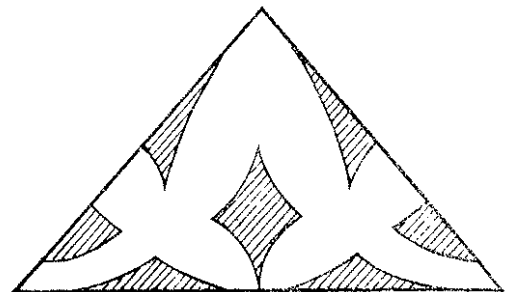
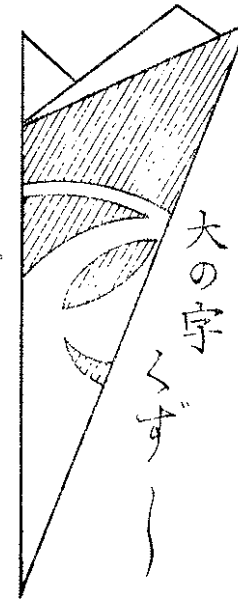


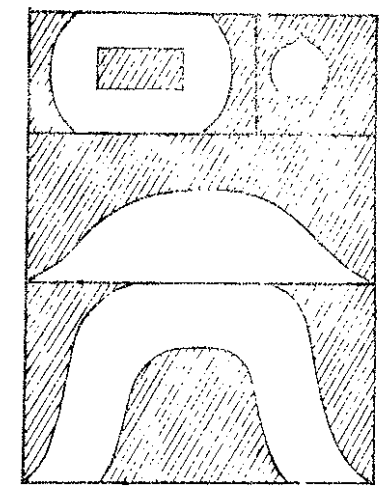
けん梅ばち



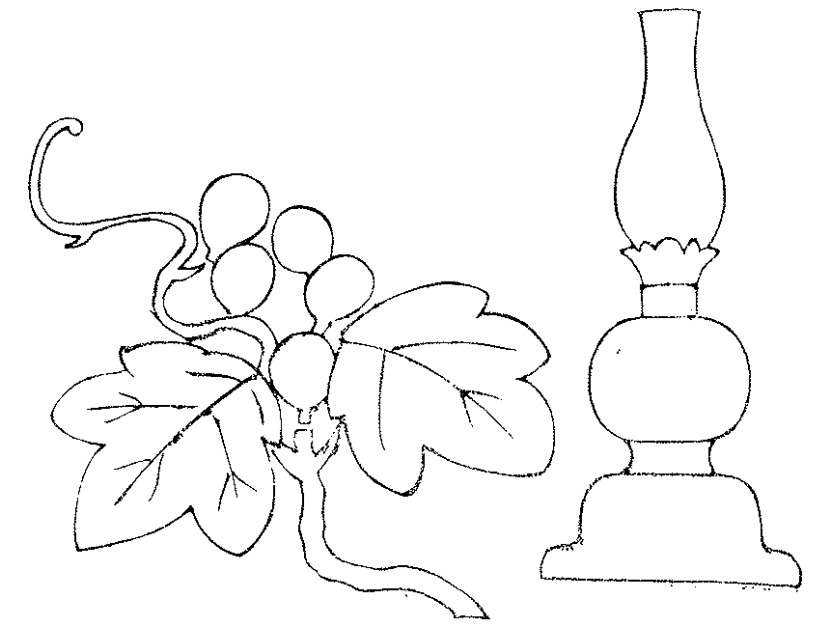
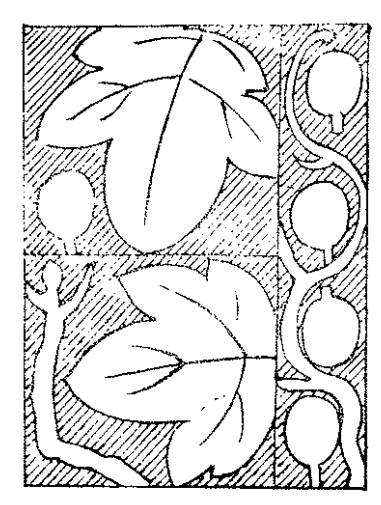
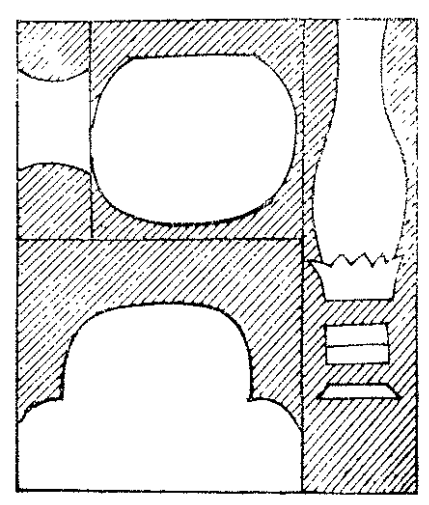
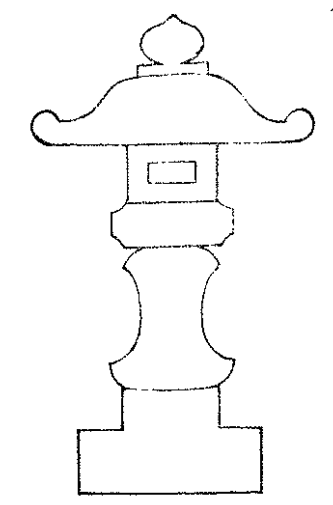
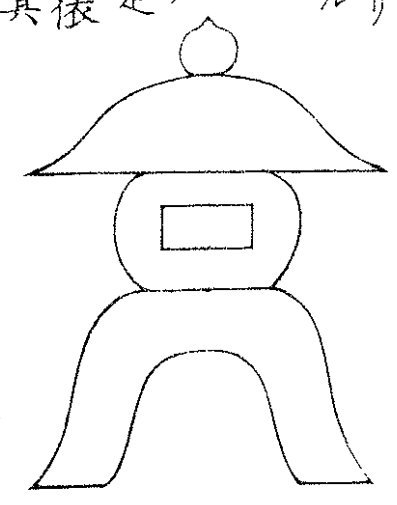
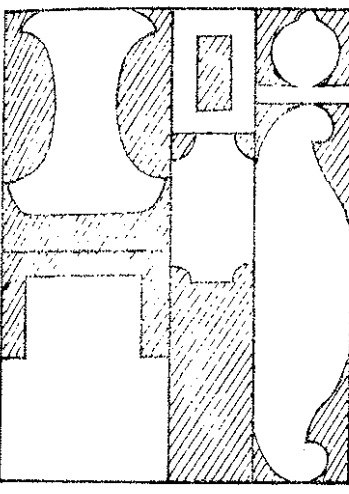
大の字

くずす

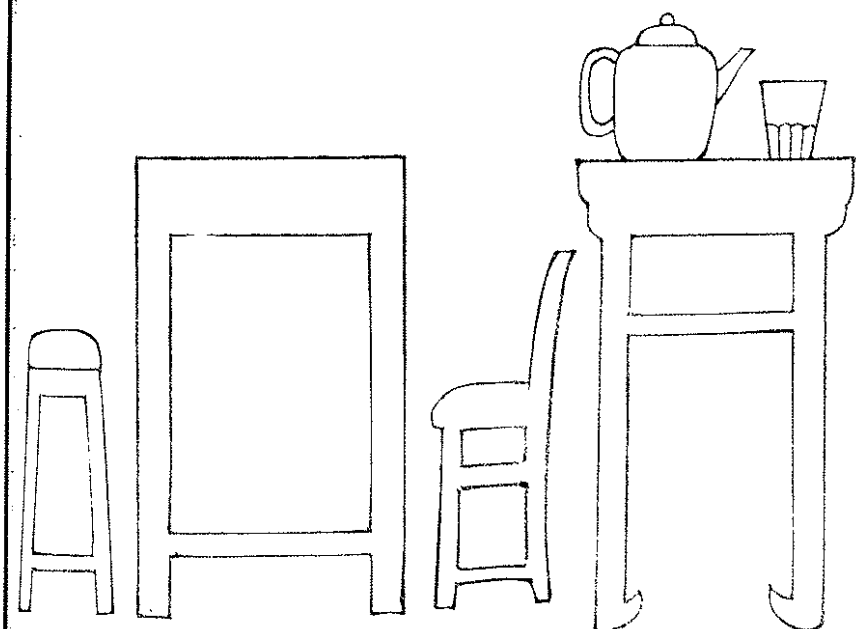
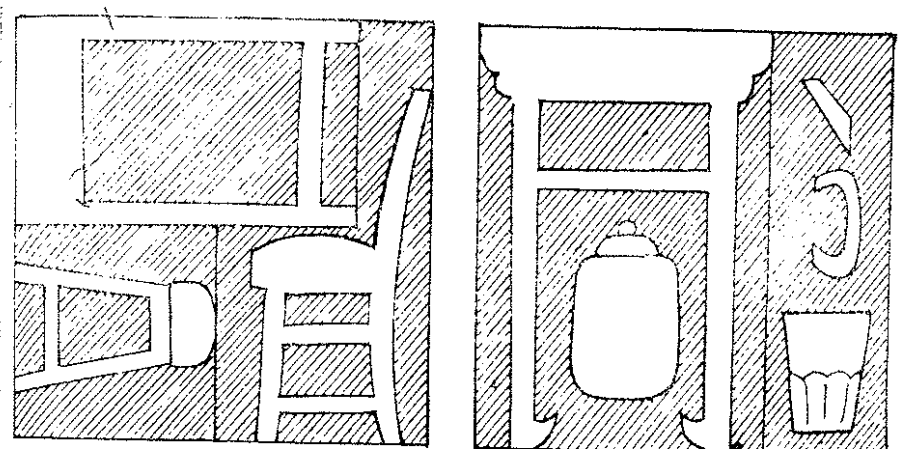
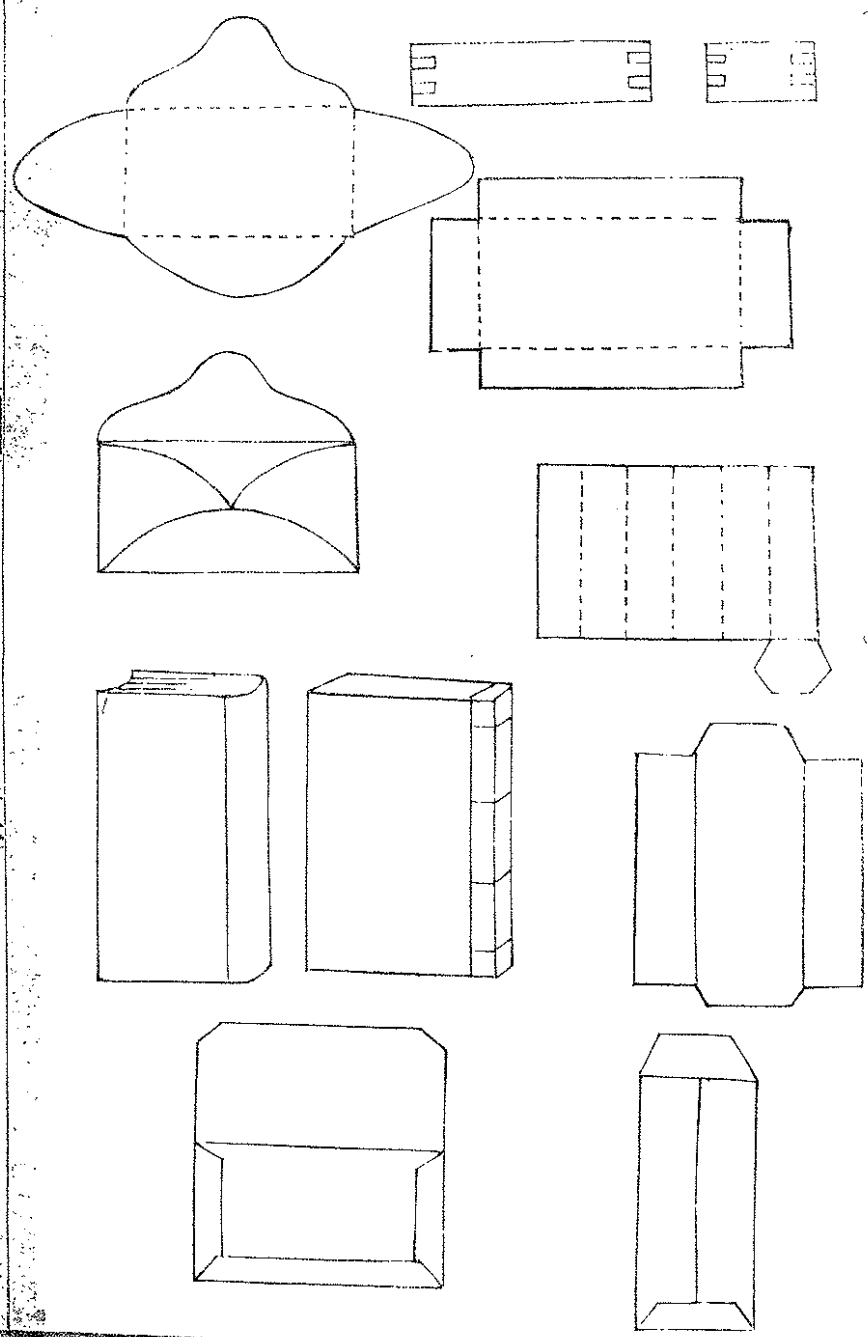




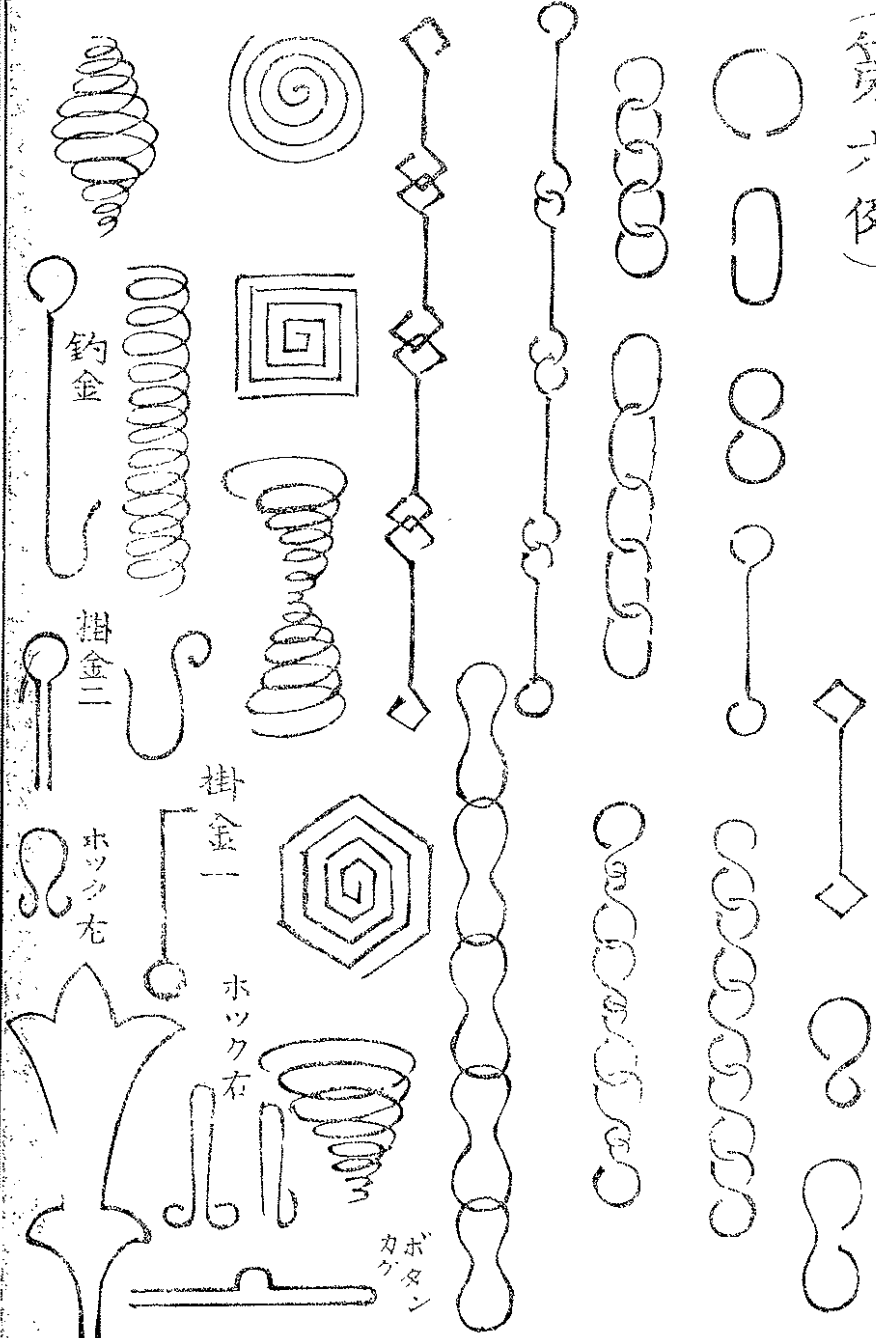
部分ヲ切り  
取ルニハナル  
ベク全紙ノ  
二分ノ一或ハ  
三分ノ四分ノ  
一ノ如ク規定  
ノ取リ方ニ依  
ルベシ是レ其  
形ヲ一定ナ  
ラシメシカ為  
ナリ



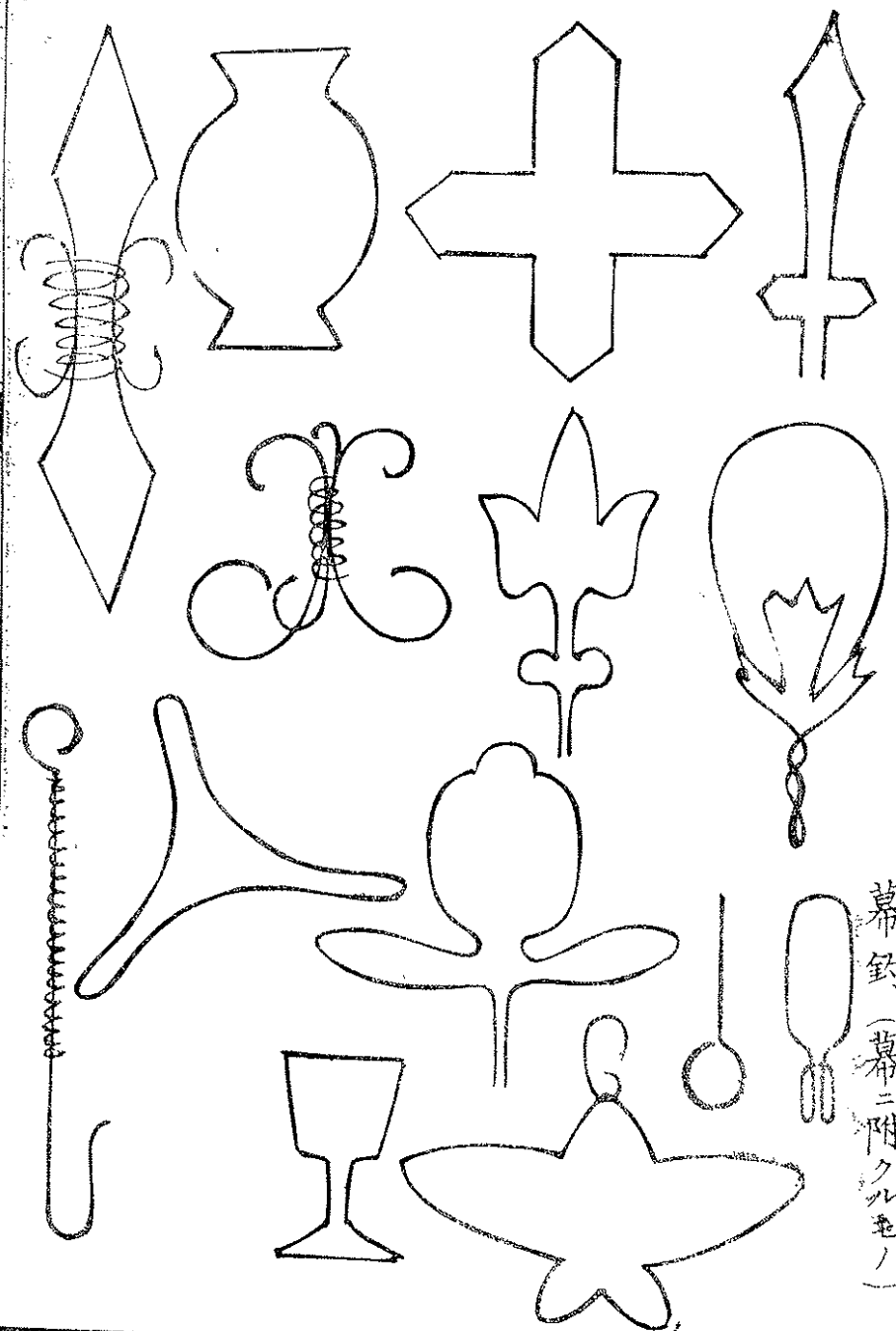
第五例



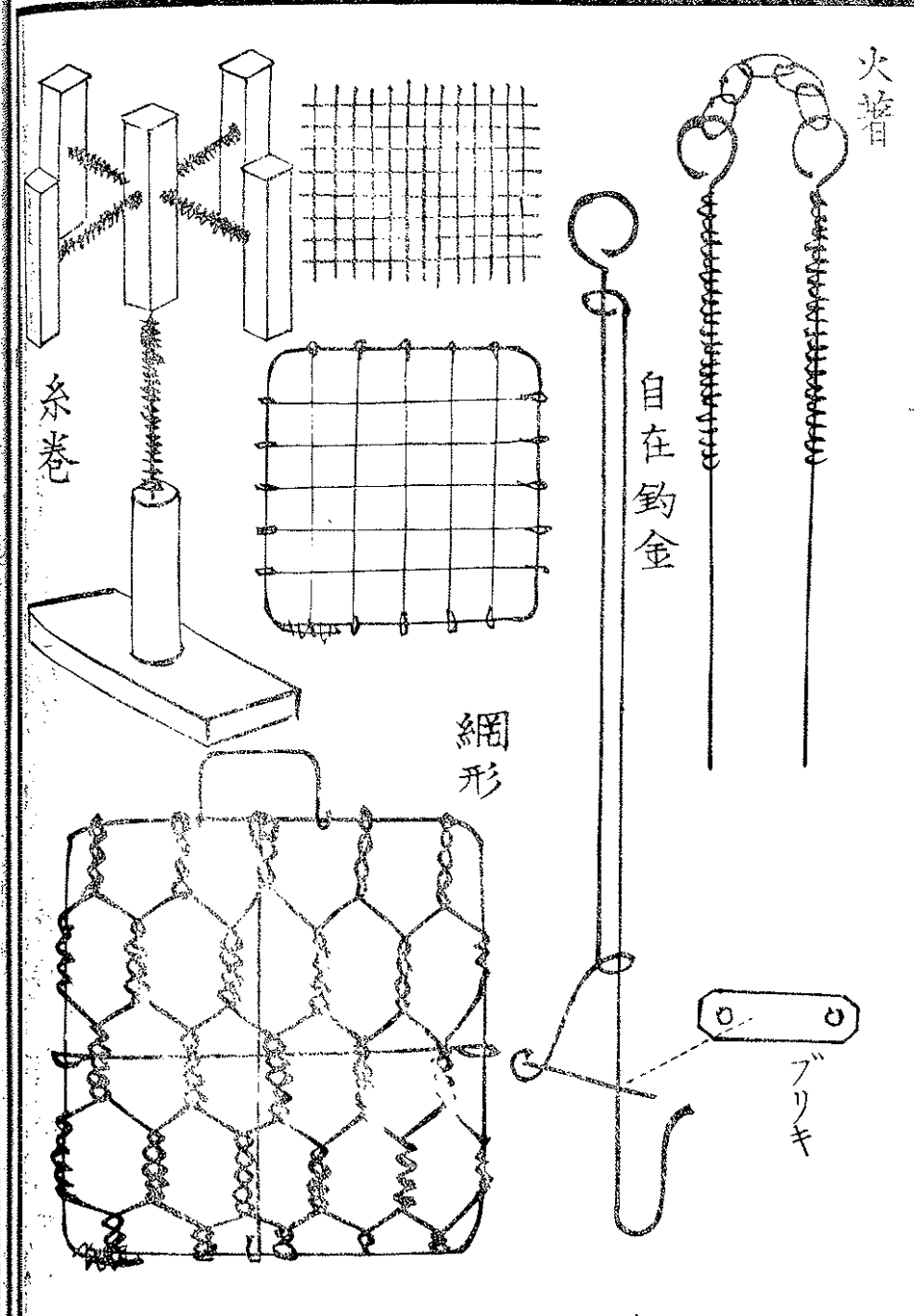
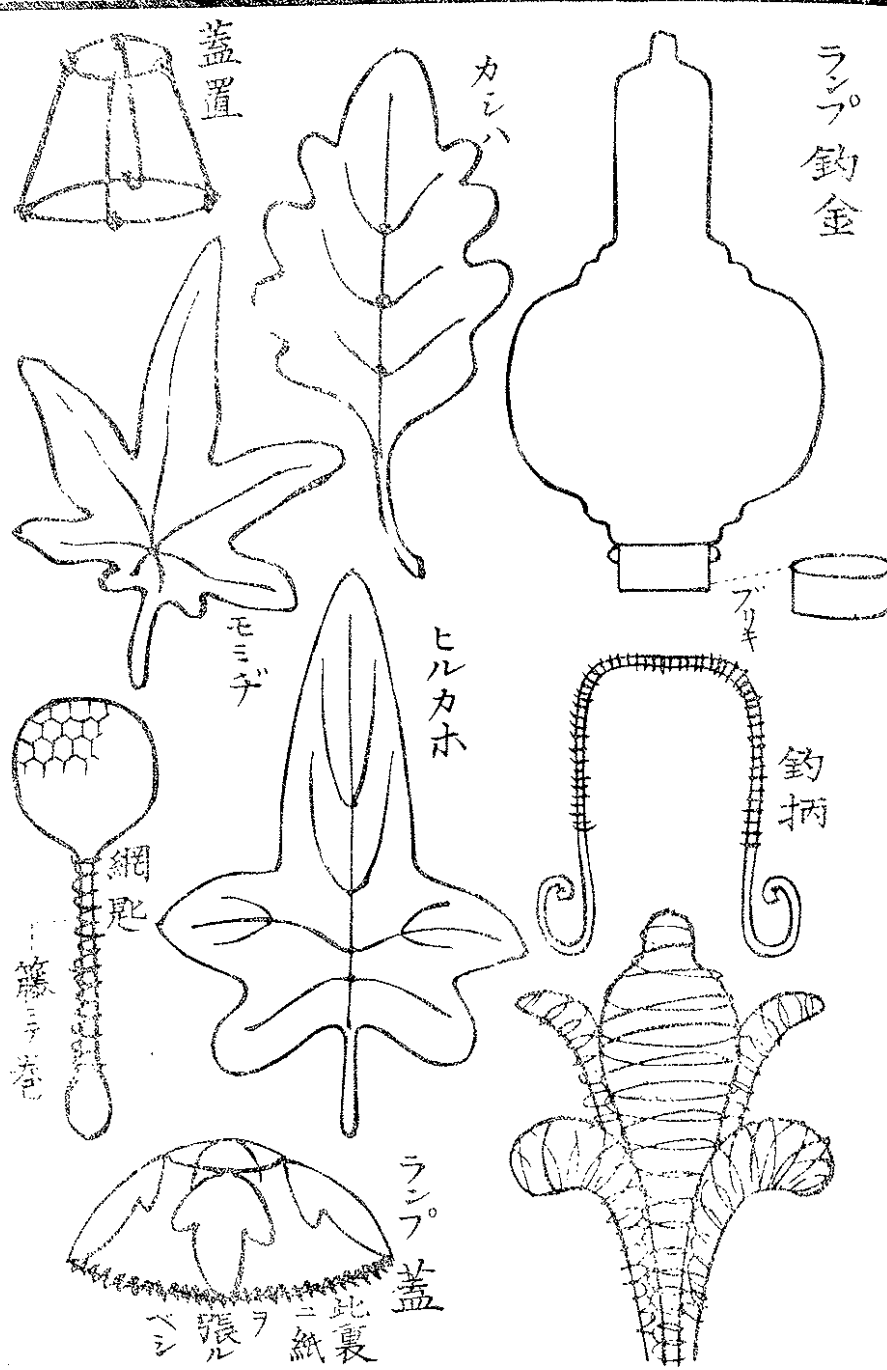
## 3

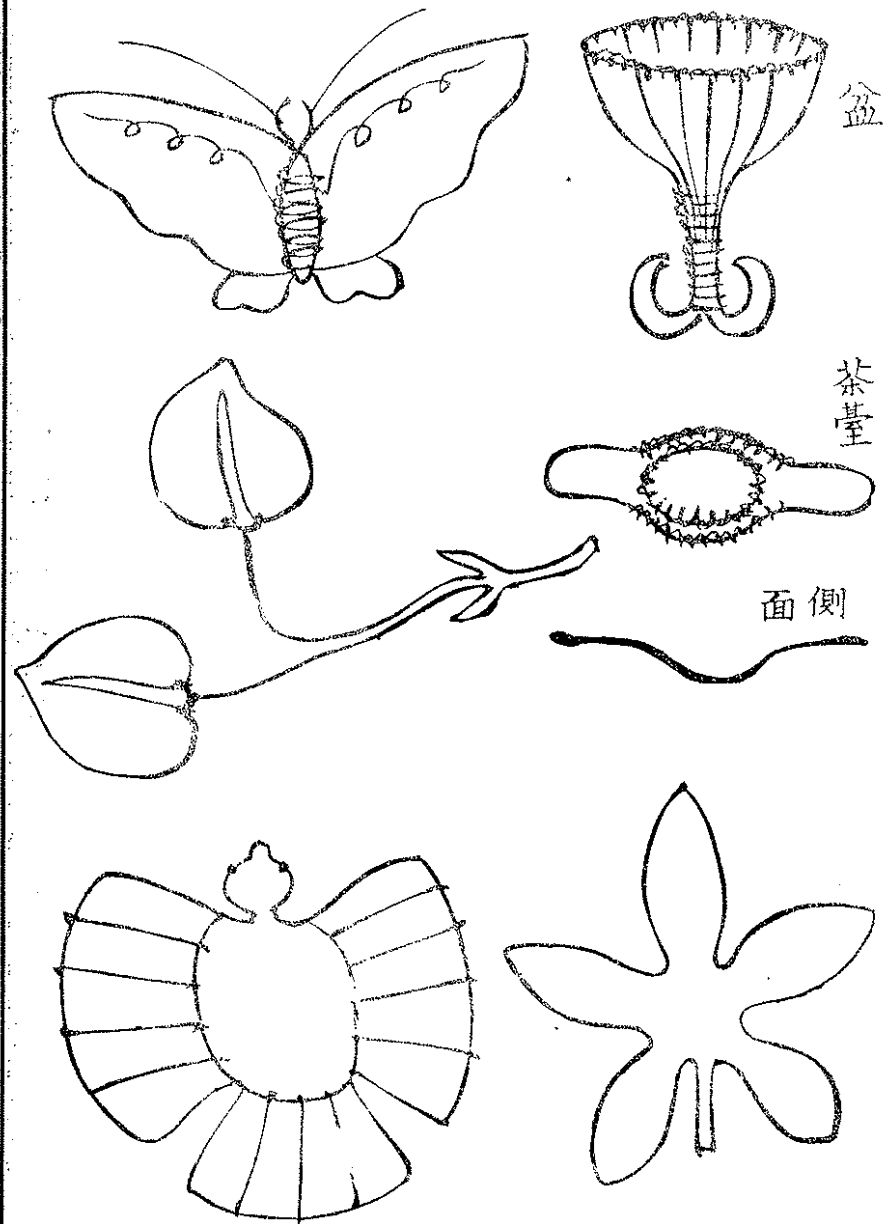
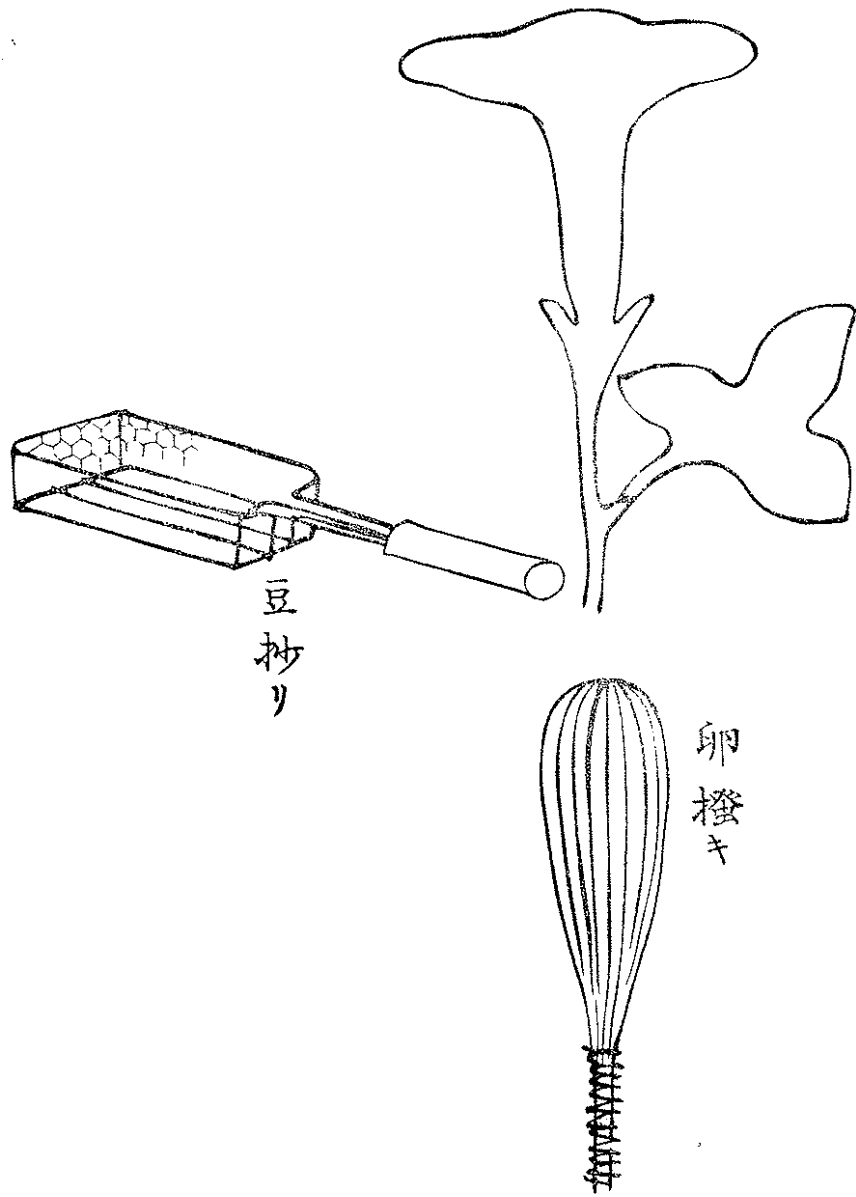


幕釣 (幕ニ附クル垂ノ)

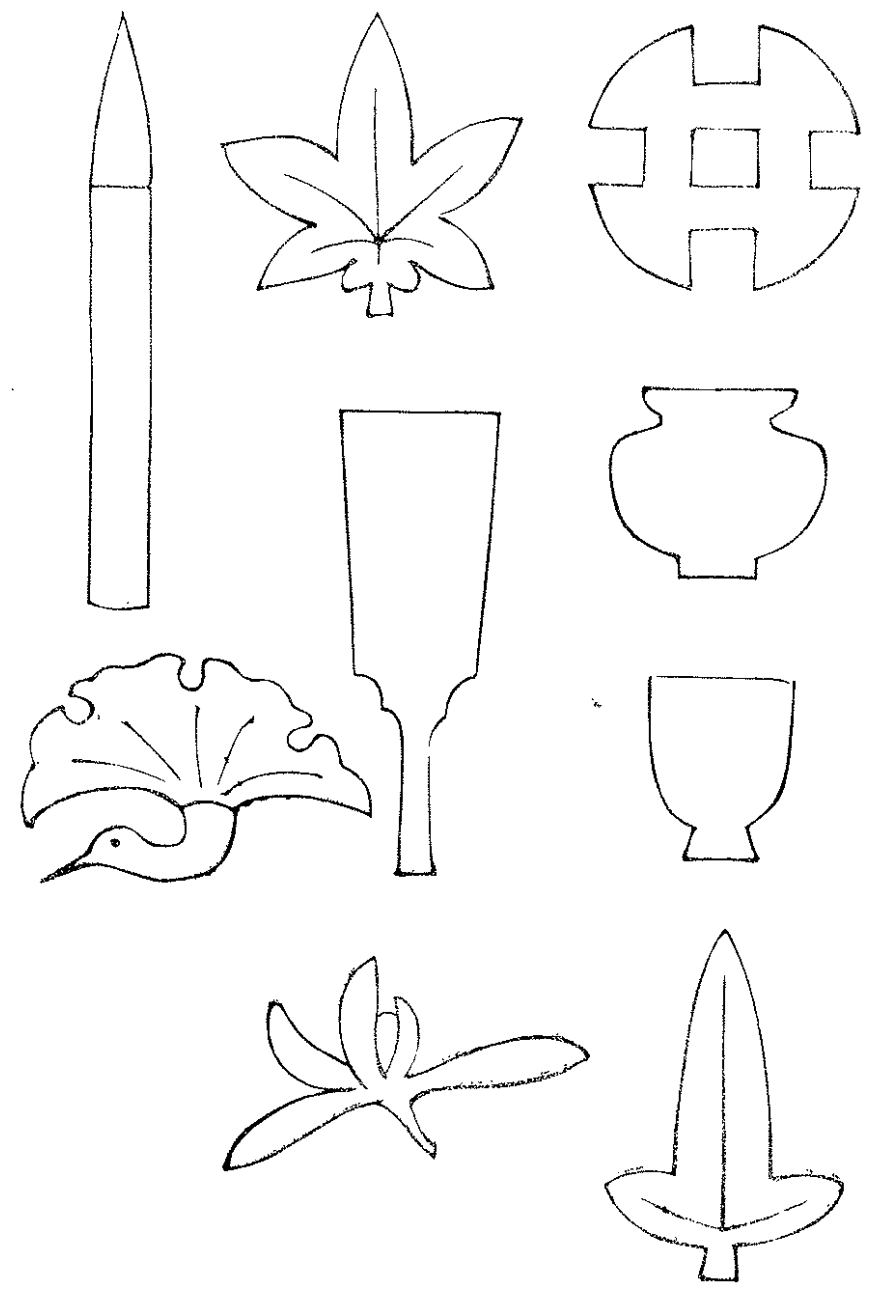
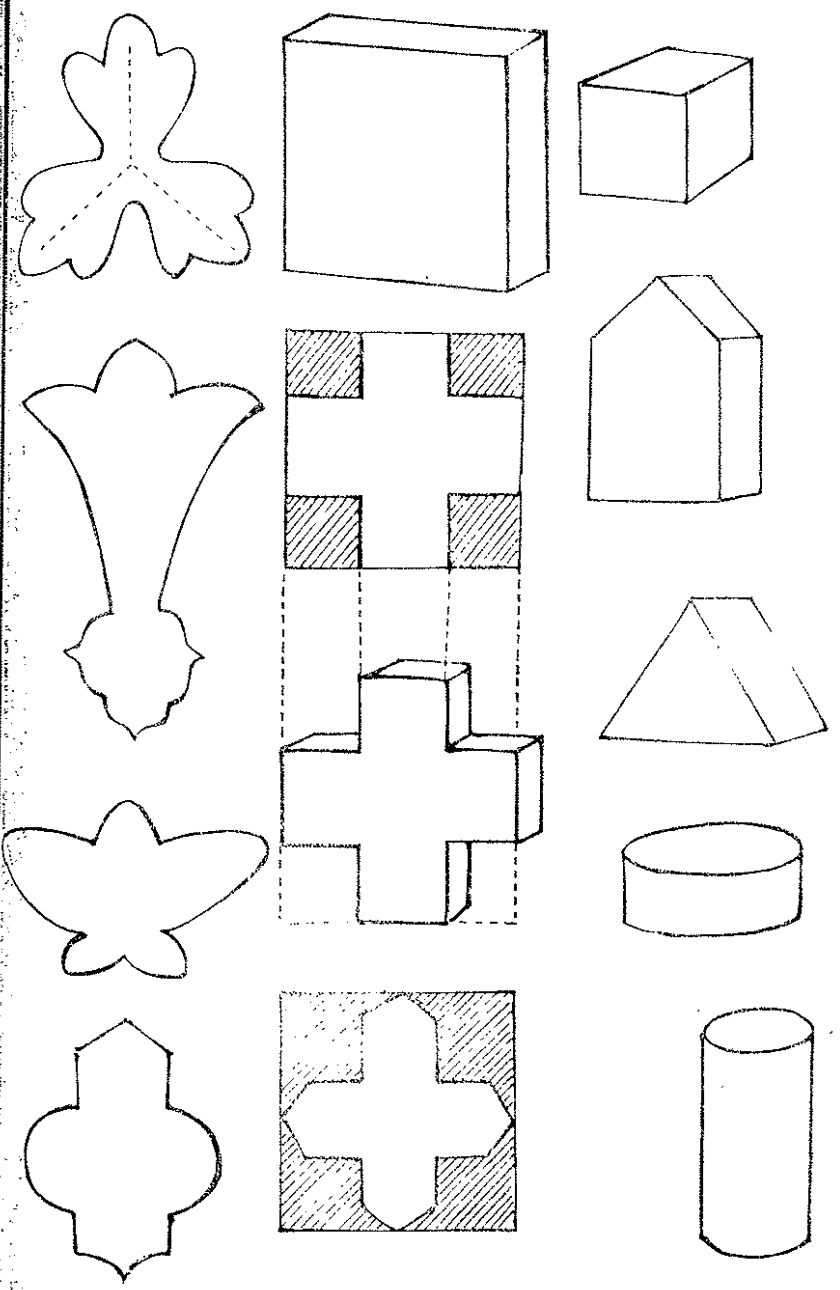


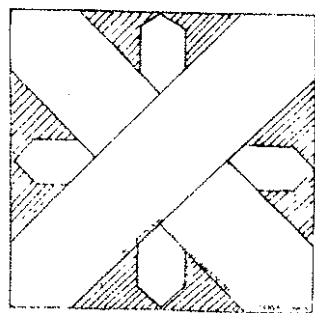
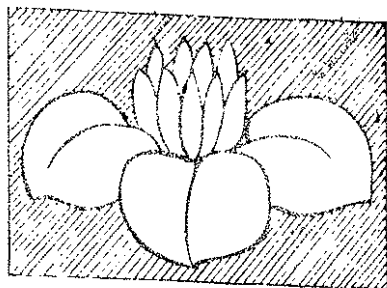
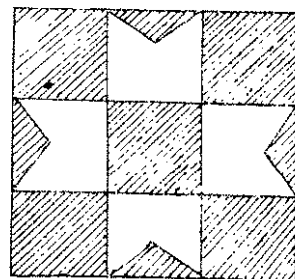
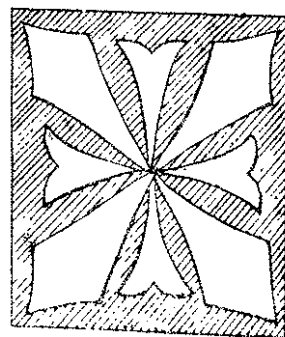
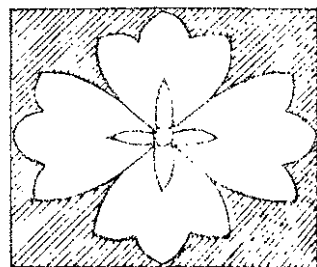
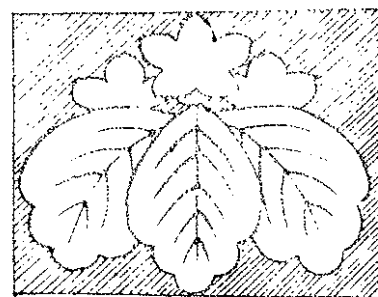




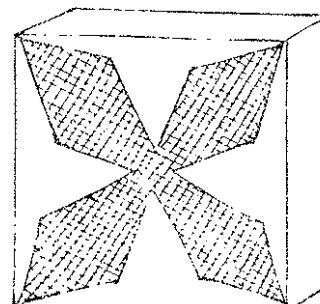
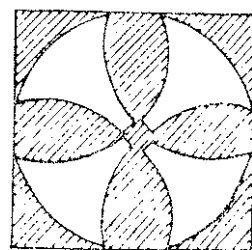


(第七例) 黒線、部分ハ之ヲ取り去ルモノト知ルベシ

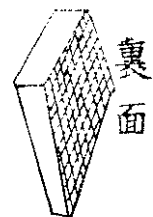
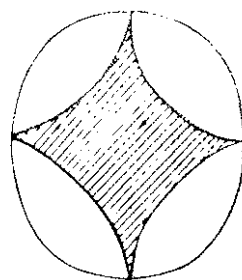
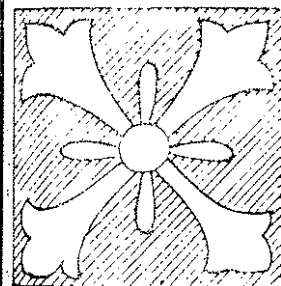




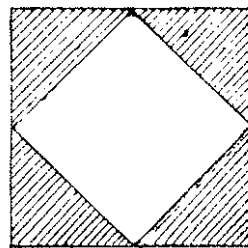
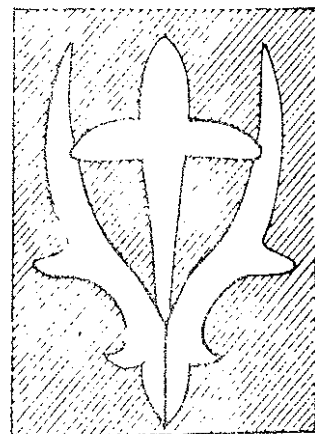
第八例



面表



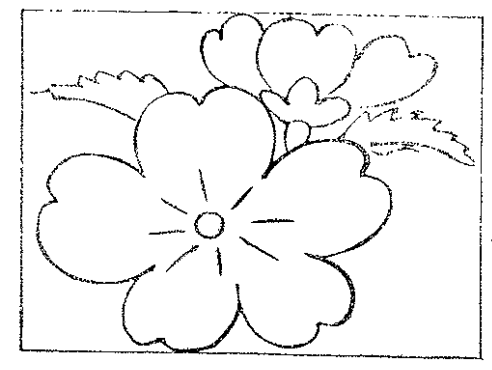
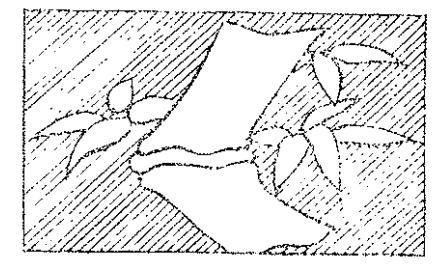
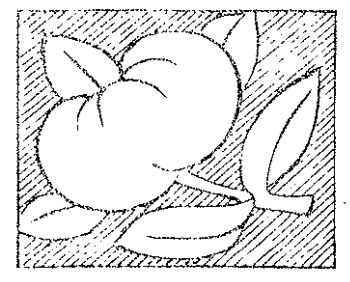
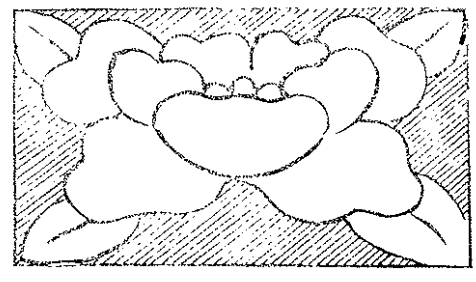
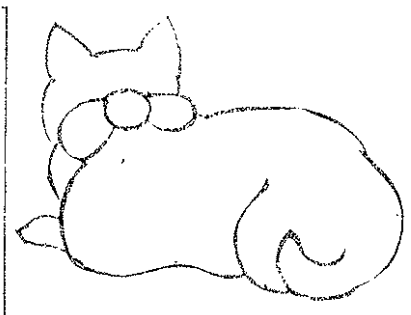
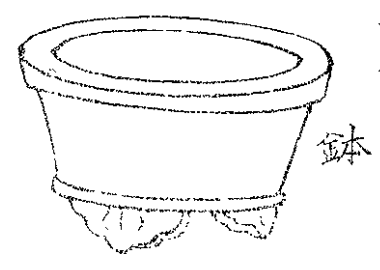
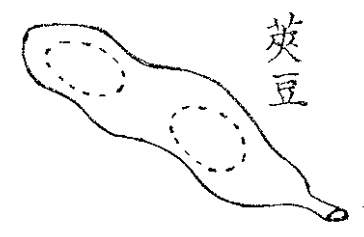
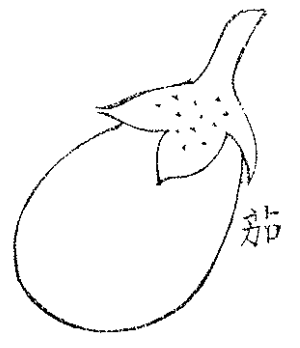
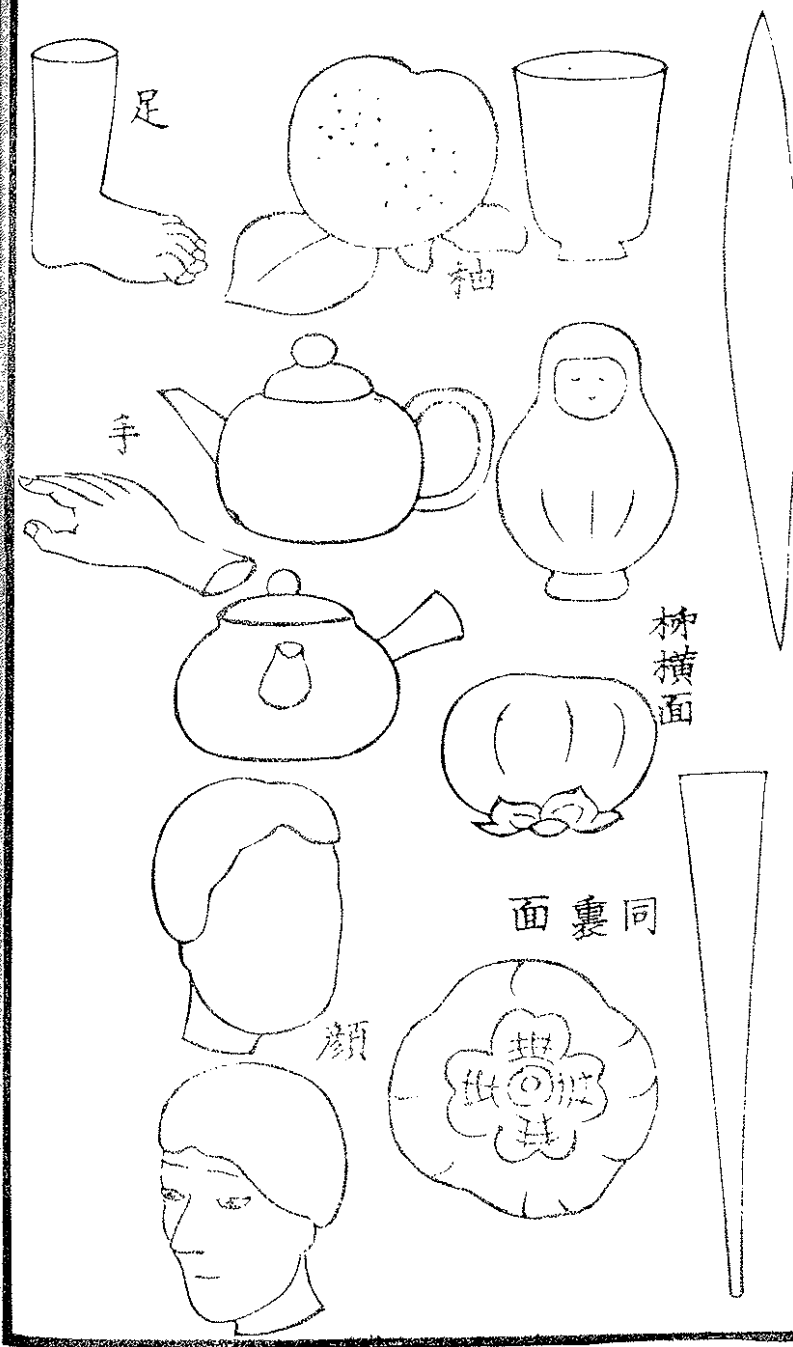
裏面

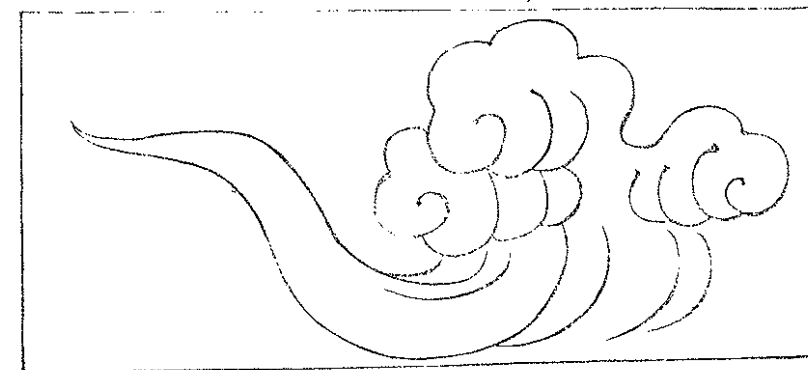
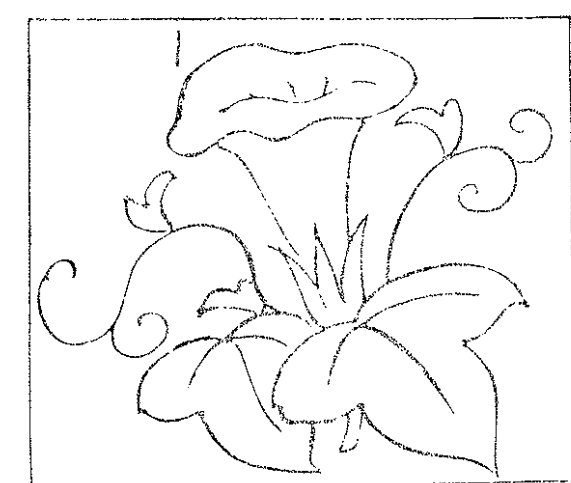
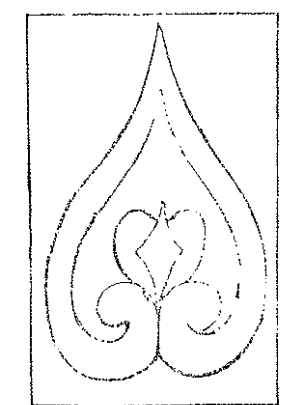
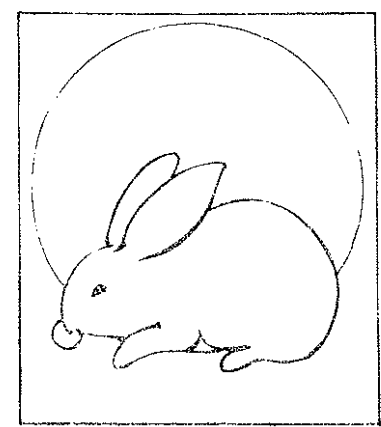
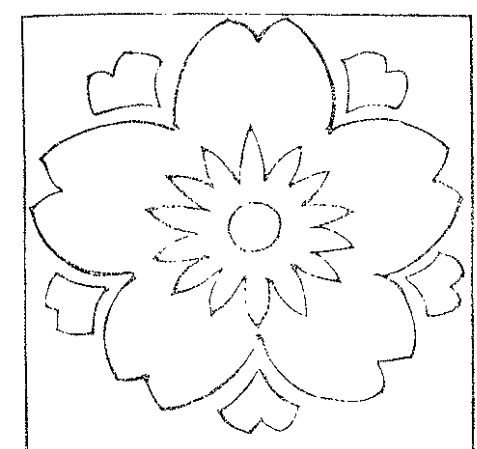
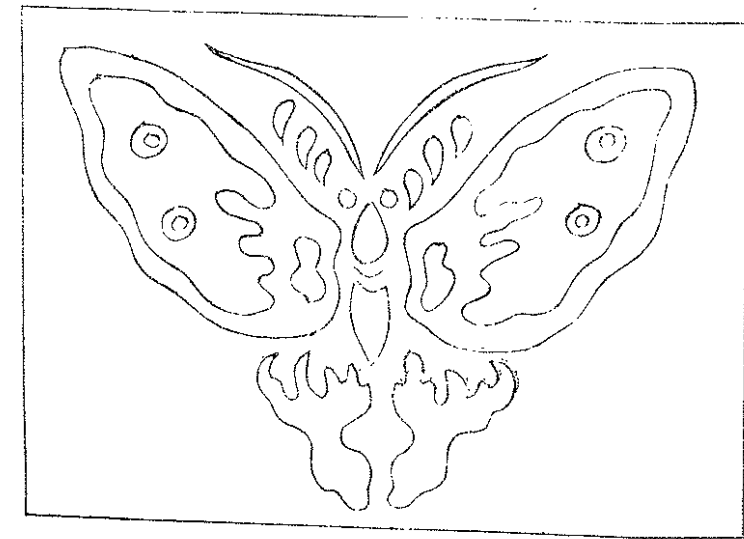
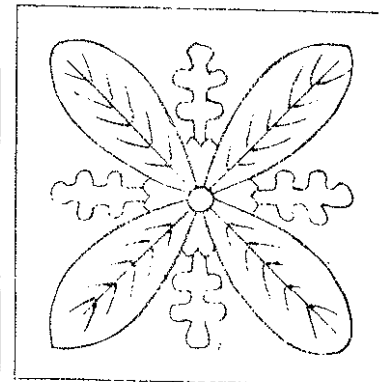
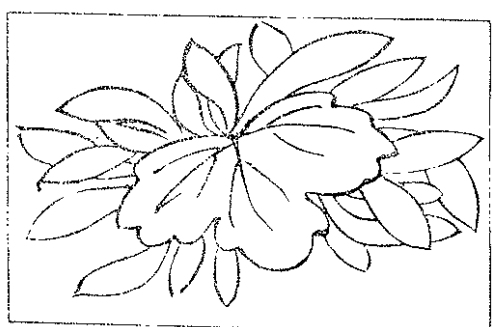
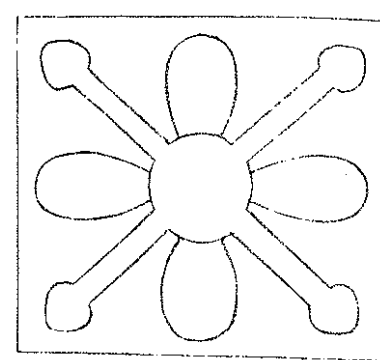
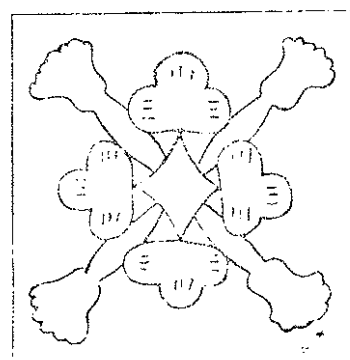


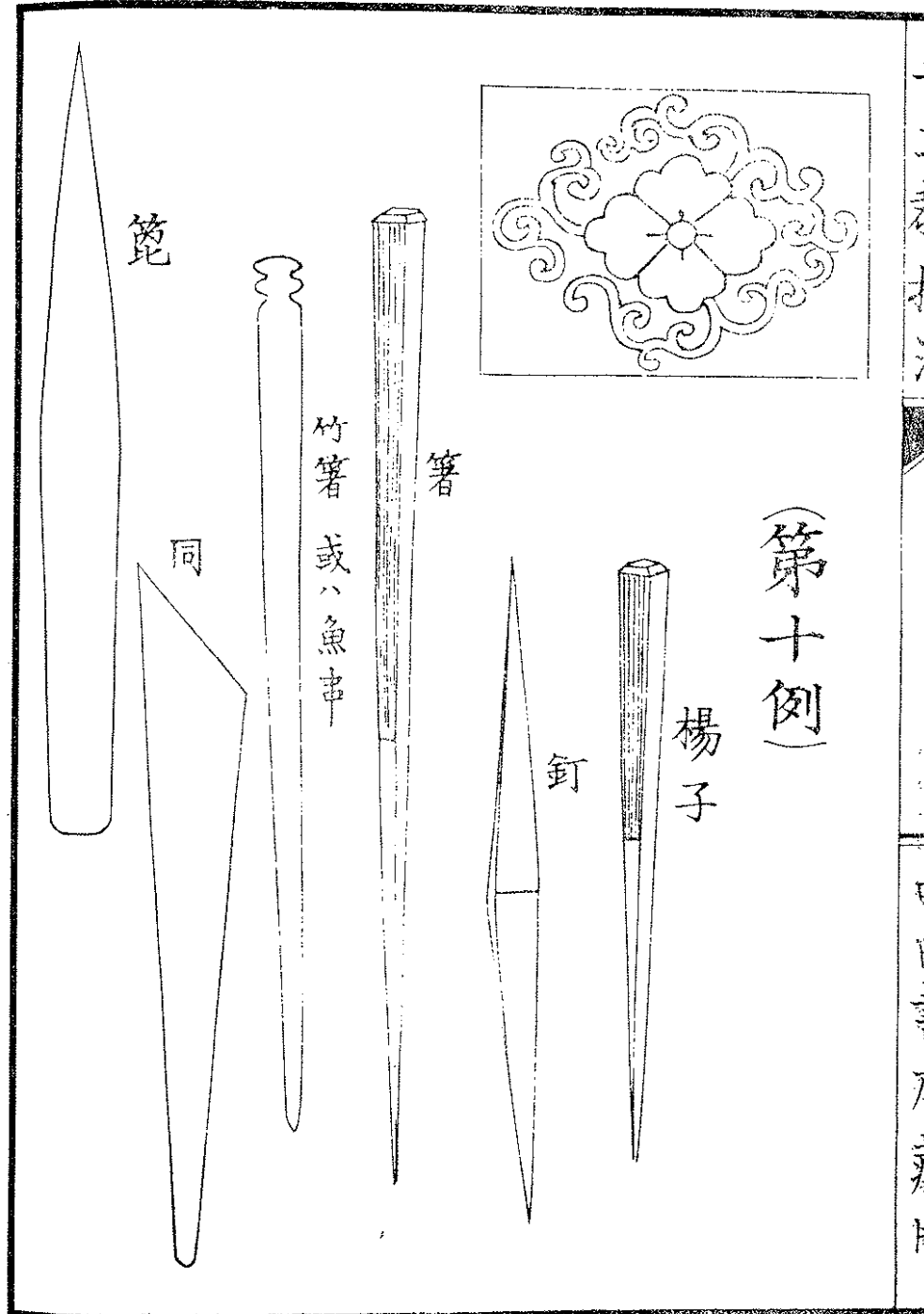
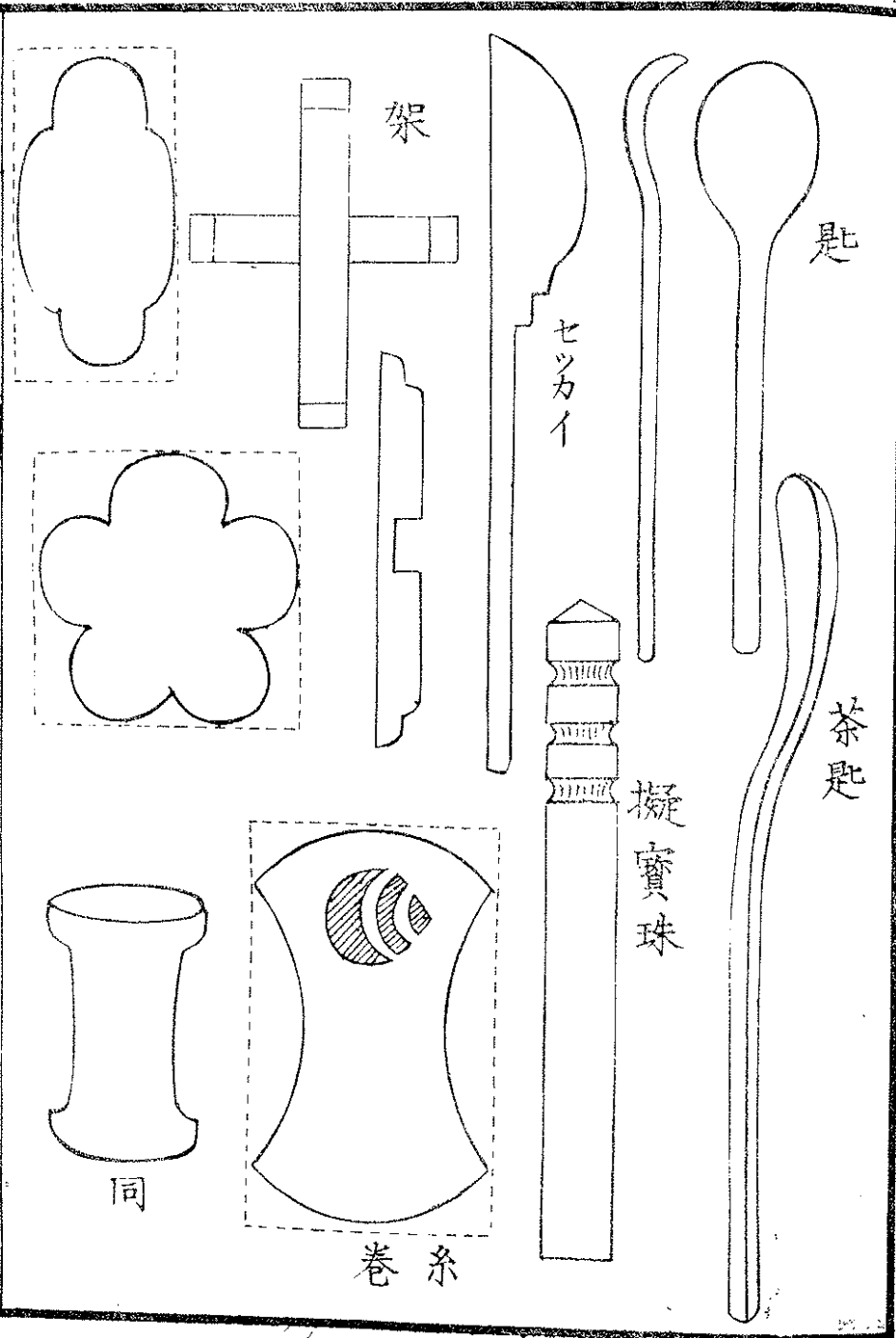


第九例

籠之圖



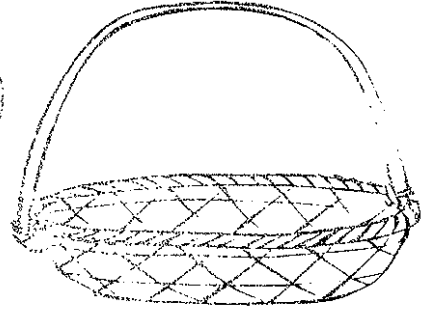




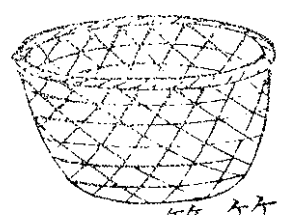
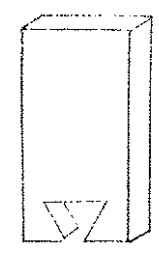
押花簾



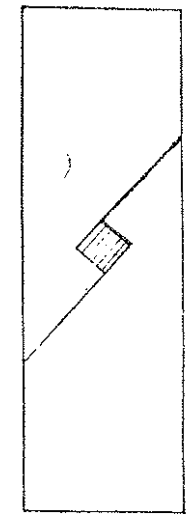
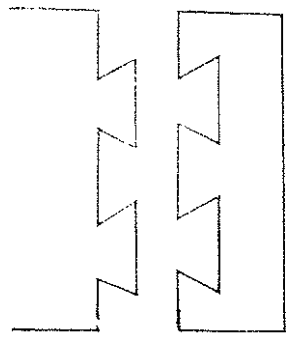
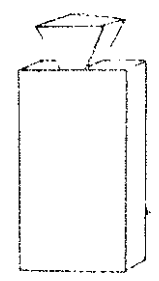
一種 籃竹



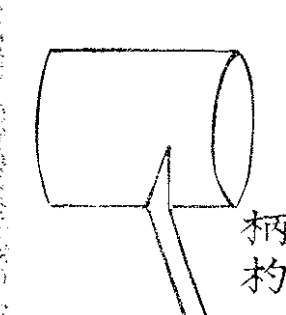
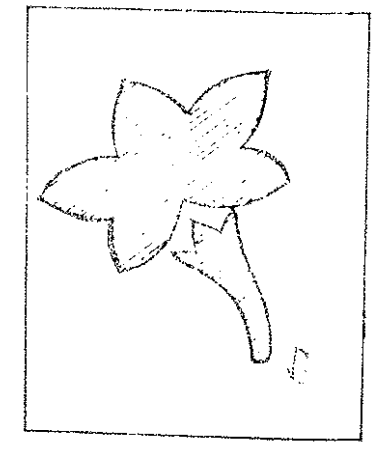
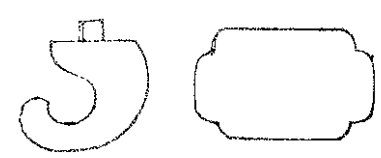
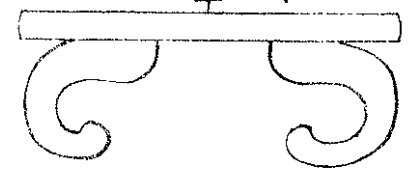
茶煎



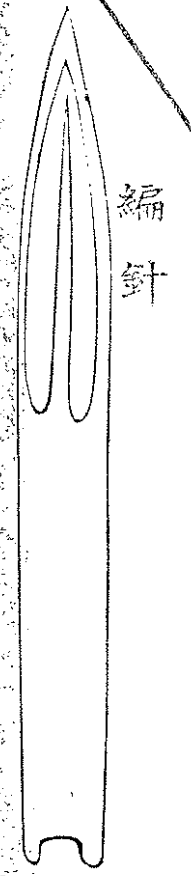
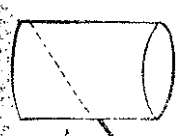
一種 籃竹



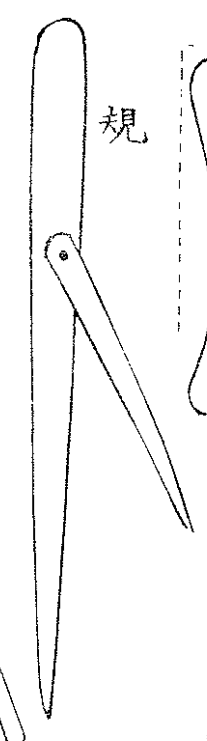
卓 小



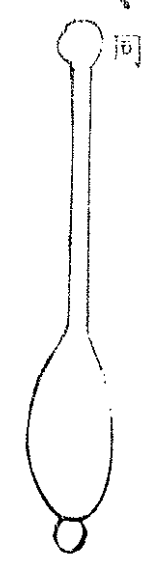
柄杓



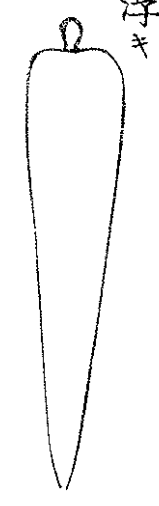
編針



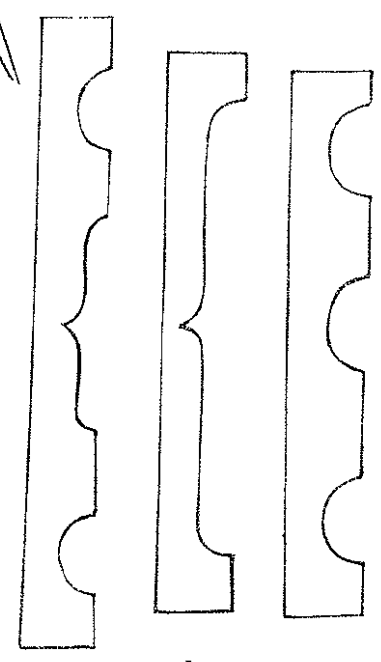
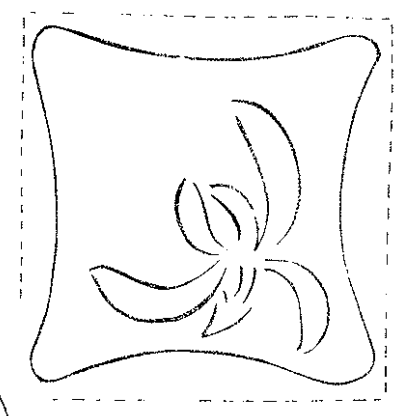
規



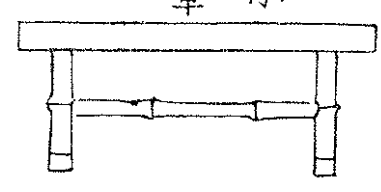
同



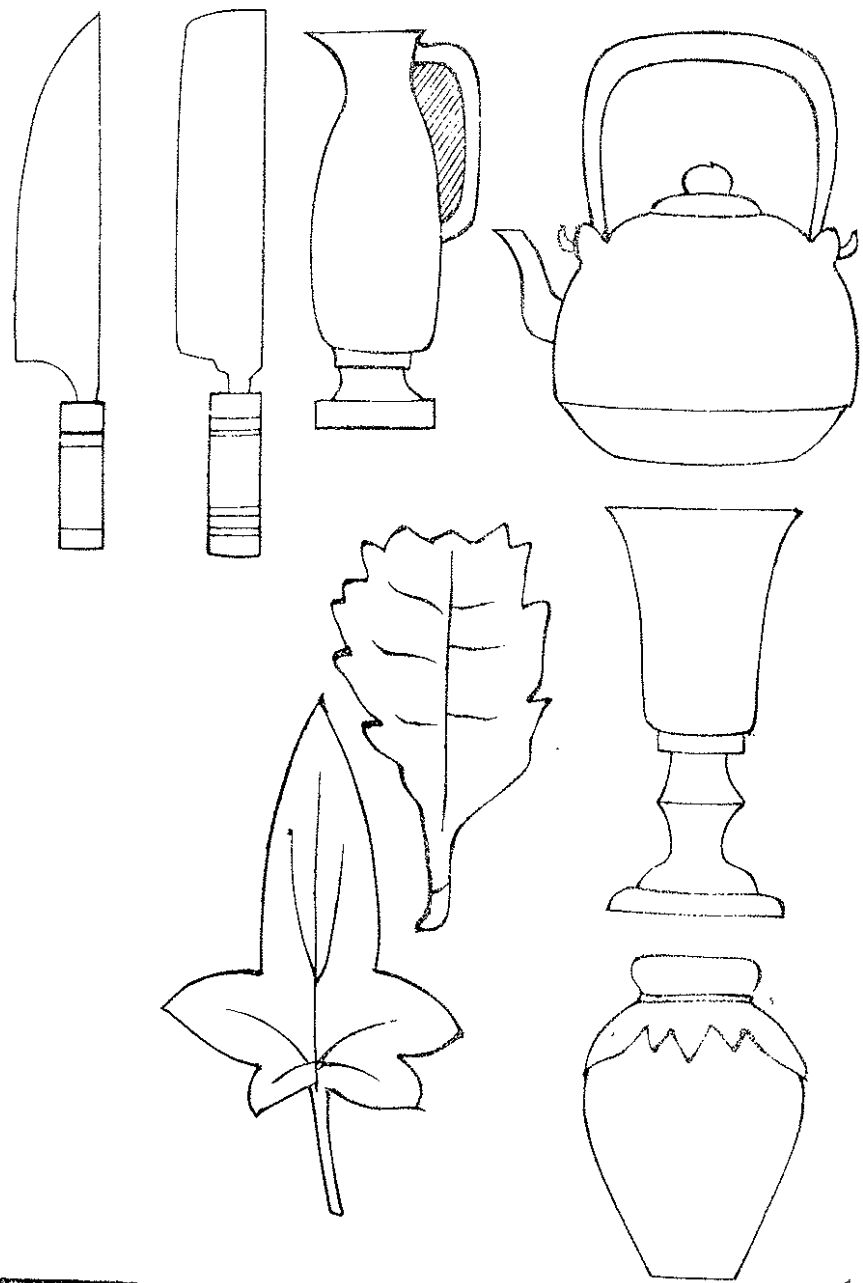
浮き



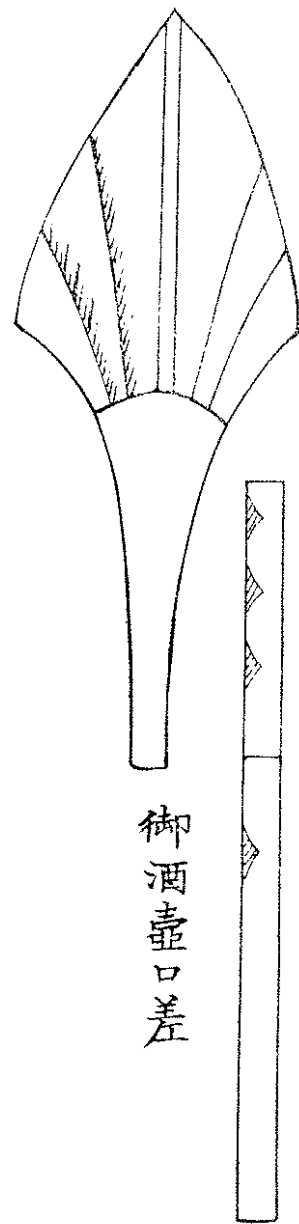
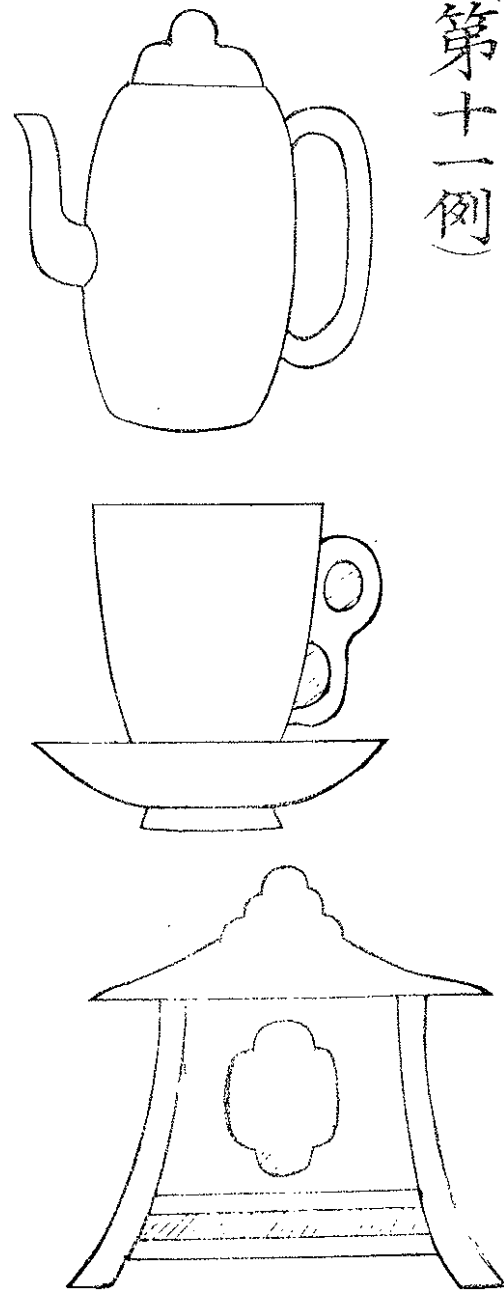
卓 小



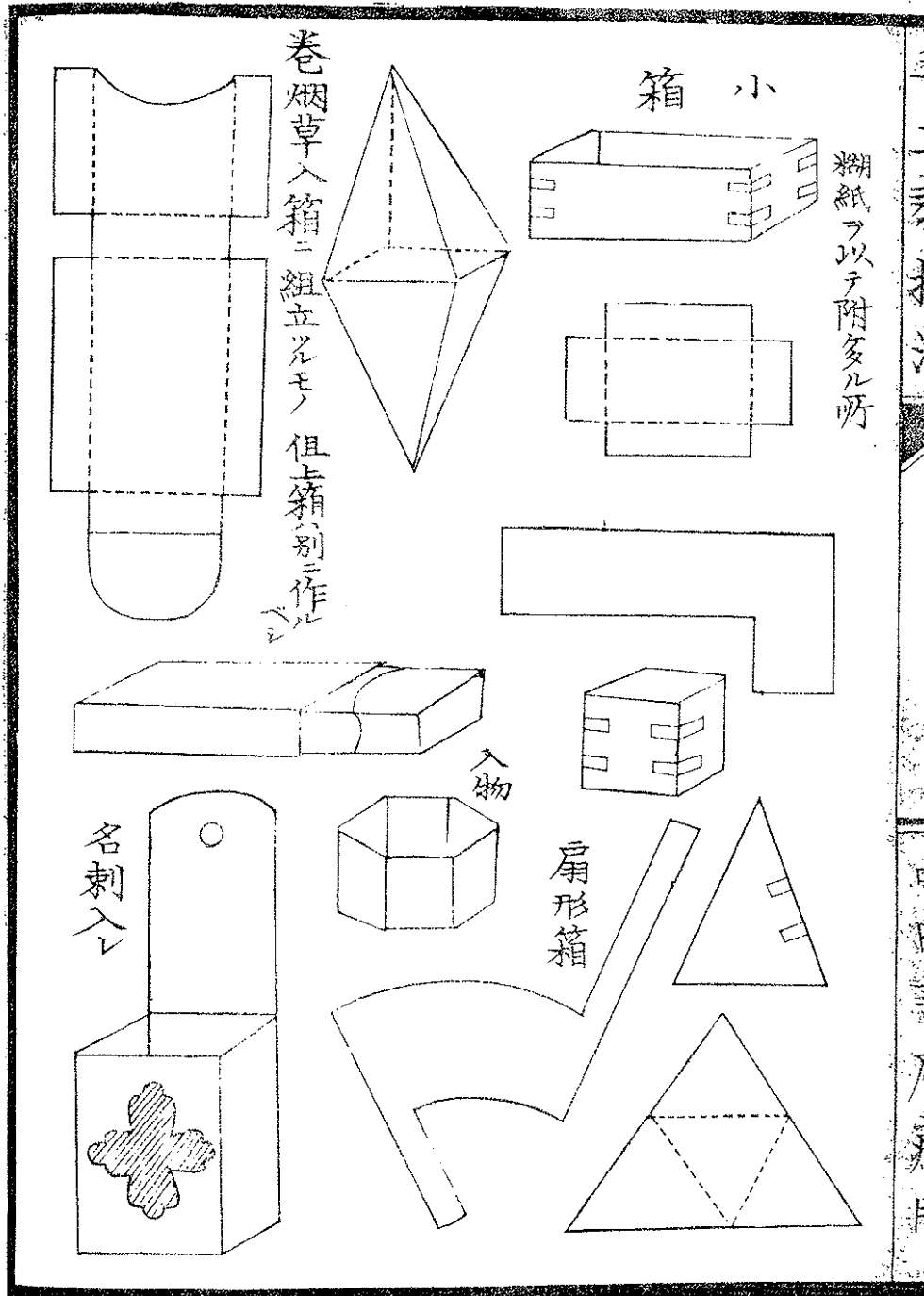
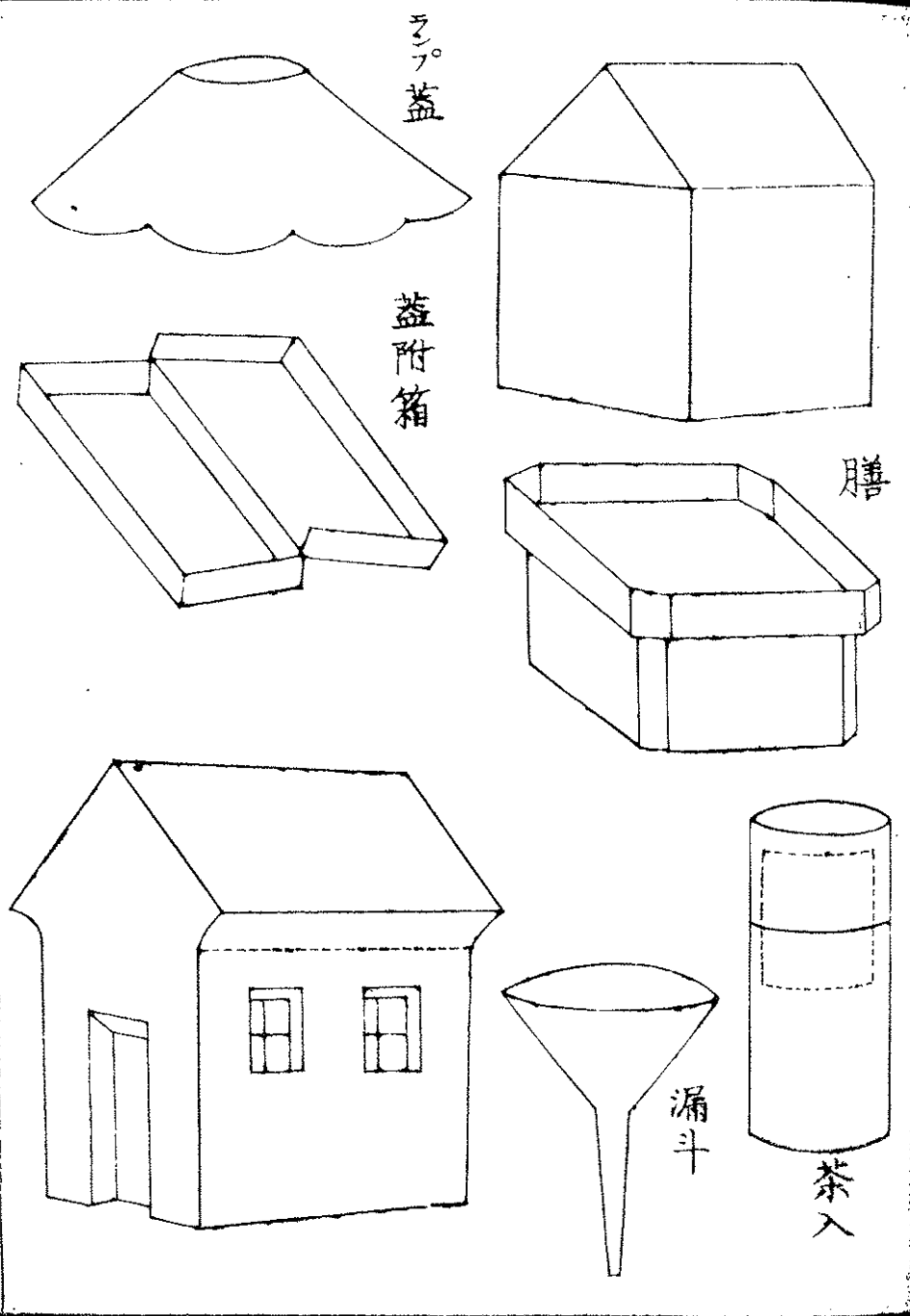


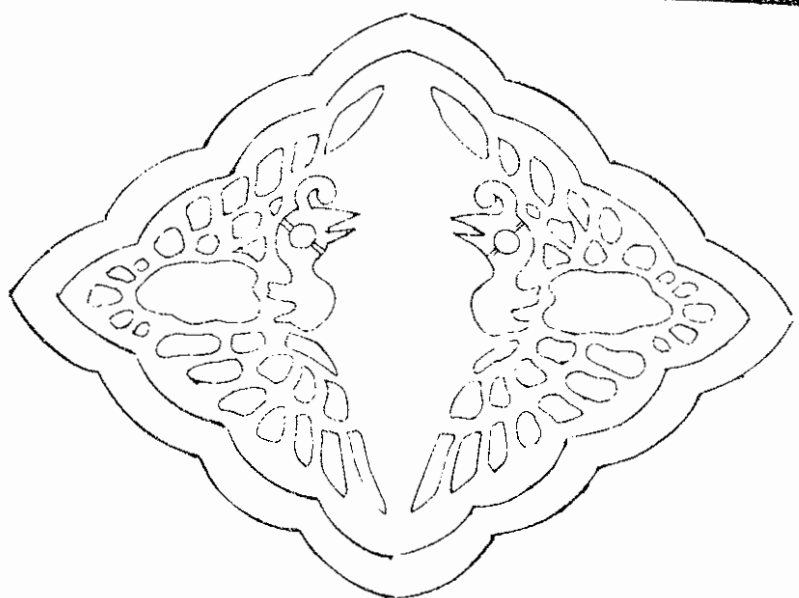
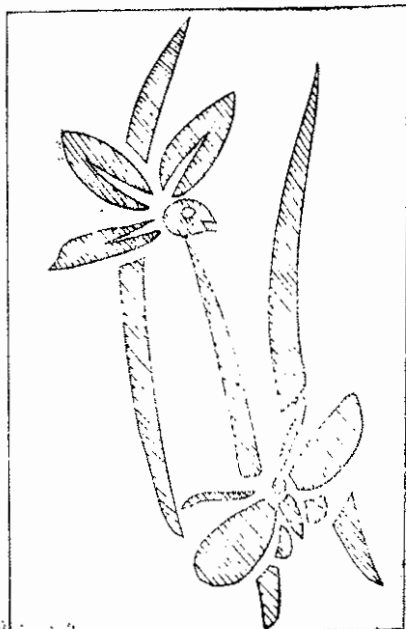
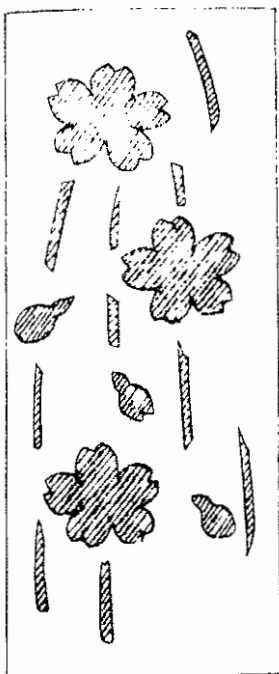
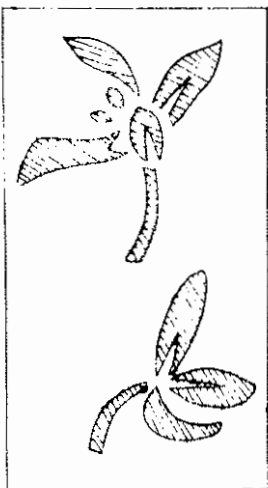
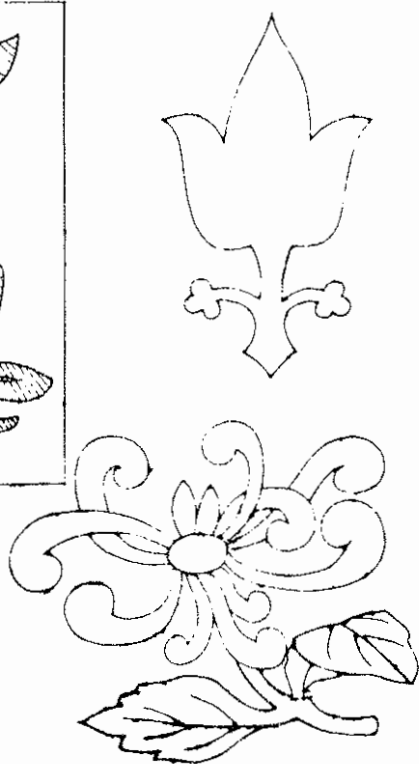


第十一例



御酒壺口差





T1A8  
71  
A88

明治廿四年五月二十日印刷  
同年五月二十五日出版

定價金貳拾錢

富山縣富山市大字西四十物町二十五番地

著者 淺尾重敏

同縣同市大字東四十物町三十五番地

發行兼印刷者 中田清兵衛

富山市大字東四十物町

發賣所 中田書店

皆さん

- 読書の前後によく手を洗い
- ゆびをなめずにページをひらき
- 表紙を巻きかえさず
- 書き込みや折り目もつけず
- いつも気持がよいように

読みましょう

東京・丸善製



